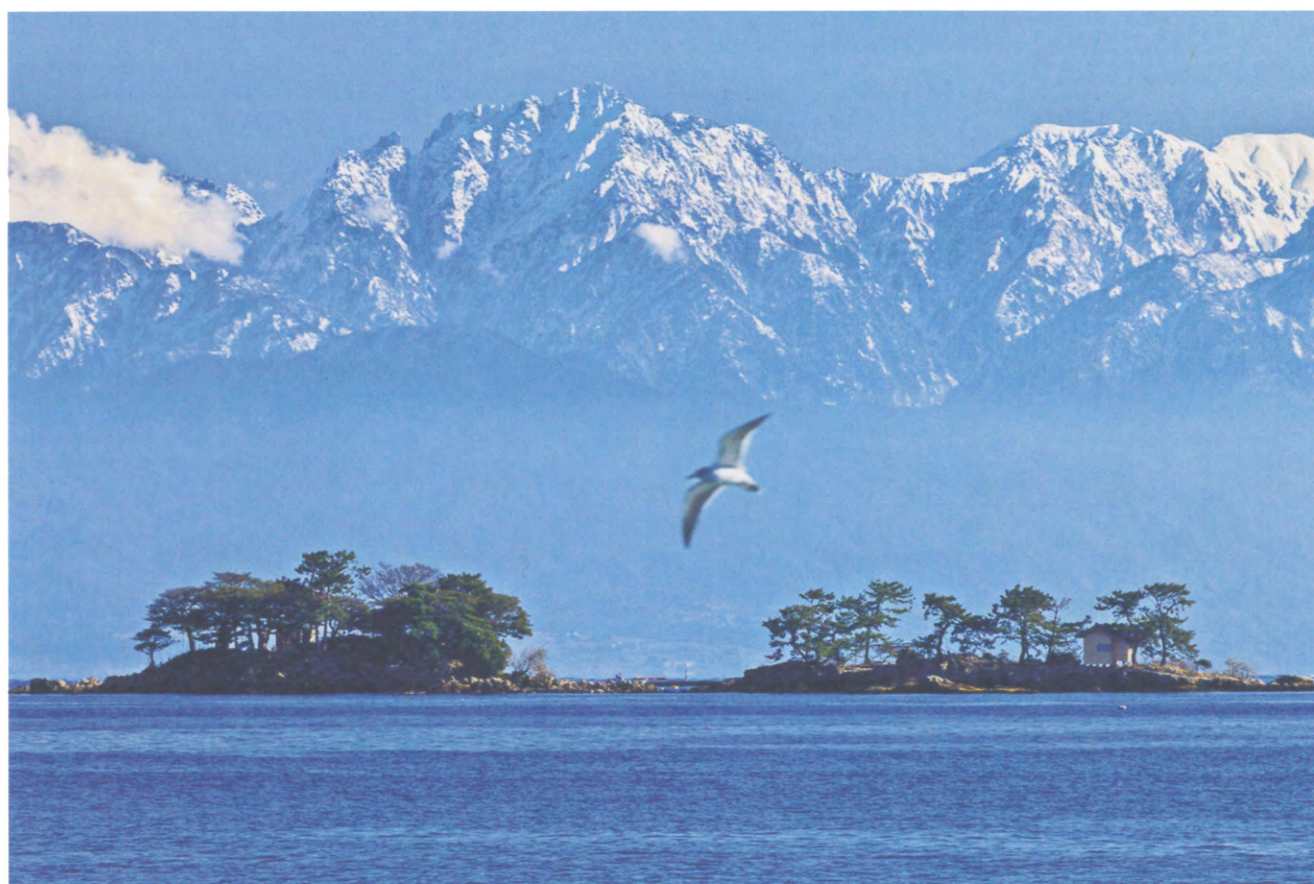


20年のあゆみ

富山県アイバンク20周年記念誌



公益財団法人 富山県アイバンク

20年のあゆみ

富山県アイバンク20周年記念誌

公益財団法人 富山県アイバンク

大会プログラム

・日時 平成24年9月30日(日) 14:00～17:00 ※開場13:30

・会場 富山県民会館大ホール

13:30 受付

14:00 開会宣言 大会実行委員長 野村謹吉
 黙祷・献花

来賓ご紹介

大会テーマの発表	副大会長	伊勢豊彦
大会長挨拶	富山県アイバンク理事長	大黒幸雄
来賓祝辞	富山県知事	石井隆一氏
	富山市長	森 雅志氏
	日本アイバンク協会理事長	金井 淳氏
	ライオンズクラブ国際協会 334-D地区ガバナー	木村正明氏

祝電披露

厚生労働大臣感謝状伝達・授与	富山県知事	石井隆一氏
富山県アイバンク功労者感謝状授与	富山大学医学部眼科教授	林 篤志氏
	ライオンズクラブ国際協会 334-D地区ガバナー	木村正明氏
	富山県ライオンズクラブ 奉仕銀行常任委員長	高瀬清春氏
	富山県アイバンク名誉理事	高田 眞氏
	富山県アイバンク理事・司法書士	藤沢 實氏

遺族代表のことば

閉会の辞 大会副実行委員長 森 弘

(休憩)

15:30 開演の辞 式典・会場委員会委員長 河合宏和
 記念講演 演題「花子の生き生きライフ」
講師 宮川花子氏

閉演の辞 式典・会場委員会副委員長 府録弘之

【主催】 公益財団法人 富山県アイバンク

【共催】 ライオンズクラブ国際協会334-D地区

【後援】 富山県、富山市、日本アイバンク協会、富山県医師会、富山県眼科医会、
 富山県善意銀行、富山県社会福祉協議会、日本赤十字社富山県支部、北日本新聞社、
 富山新聞社、読売新聞北陸支社、北陸中日新聞社、朝日新聞社富山総局、
 毎日新聞富山支局、富山放送局、北日本放送、富山テレビ放送、
 チューリップテレビ、FMとやま、ケーブルテレビとやま、ラジオたかおか

厚生労働大臣感謝状受章者

■ 平成23年9月から平成24年7月まで

贈与年月	贈与者ご芳名	地区	贈与年月	贈与者ご芳名	地区
平成23年10月	佐野 辰一様	高岡市	平成24年2月	匿名 希望	富山市
11月	本田 功様	富山市	4月	中野 長保様	射水市
12月	和気 陽子様	富山市	5月	辻 信之輔様	富山市
12月	藤澤 榮一様	富山市	5月	匿名 希望	富山市
12月	佐々木 弘様	氷見市	5月	匿名 希望	朝日町
平成24年1月	向川 義則様	小矢部市	5月	西田 修様	上市町
1月	池田 勲様	南砺市	6月	匿名 希望	
1月	澤田 サヨ様	富山市	6月	碓井 邦雄様	立山町
1月	大和まこと様	富山市	7月	川島 潔様	氷見市
2月	匿名 希望	高岡市	7月	米澤英一郎様	高岡市
2月	匿名 希望	魚津市	7月	小林 宗一様	南砺市
2月	桃井 伸子様	富山市			

設立20周年記念講演

開演時間 15:30~

◆演 題 「花子の生き生きライフ」



◆講 師

宮川 花子氏

講師プロフィール

1955年8月28日生まれ、大阪府出身。

宮川大助氏と夫婦漫才の頂点に立つコンビ。

1979年、大助氏が妻である宮川花子を誘い「宮川大助・花子」を結成する。当初は大助氏がよく喋り、宮川花子が相槌を打つ役割であったが、周囲の勧めもあって現在の形に変更して評判になる。その後上方漫才の賞をいくつも獲得し、現在の地位を確立。1988年胃の手術をした宮川花子は、後に胃がんだったと告白。また1990年には大助氏が、のどのポリープを切除、95年には胆石手術もする。色々なことがあったが、病気とともに夫婦の危機も乗り越え、仲の良い夫婦漫才として活躍中。2006年、結婚30周年（真珠婚式）を迎える。

富山県アイバンクの概要

【アイバンクの事業三原則】

- 十分な提供者を確保する
- 安全な角膜を提供する
- 公平・公正に提供する

現在の角膜移植医療においては、提供された角膜を用いて移植を行うことが唯一の方法です。

昭和33年に「角膜移植に関する法律」が施行されて以来、岩手医科大学、慶応大学、順天堂大学に続き全国にアイバンクが設立されました。

富山県においては昭和38年10月10日“眼の愛護デー”を記念して富山県善意銀行内にはじめて眼球預託口座が設けられました。

その後、角膜移植についての正しい知識の普及、眼球提供者の登録、緊急に手術を必要とする患者に対する眼球の斡旋の業務を行うため、富山県民の福祉の増進を図るため、眼球斡旋機関として(財)富山県アイバンクが平成3年12月に富山県から1,000万円、富山県内のライオンズクラブから4,000万円、計5,000万円を基本財産として設立されました。

富山県アイバンクの仕事

【公益目的事業】

眼球のあっせん等に関する事業

厚生労働省より「眼球提供あっせん業」の許可を頂き、角膜疾患の方々が再び光を取り戻すことができるように、角膜提供者を募集し、登録業務などを行うとともに、移植希望されている方々の登録、提供いただいた角膜の移植を希望する方へのあっせん事業を行っています。

- (1) 献眼する者の募集及び登録に関する事業
- (2) 提供される眼球の摘出、検査、保存及びあっせんに関する事業
- (3) 献眼及び角膜移植に関する知識の普及啓発事業

眼の衛生に関する普及啓発事業

- (1) 広報誌の発行事業
- (2) 眼の衛生に関する啓発事業

目 次

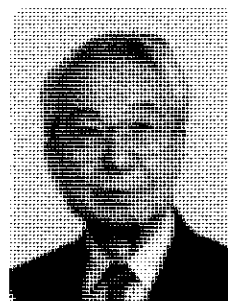
設立20周年記念大会大会プログラム	2
富山県アイバンクの概要	4
ごあいさつ	公益財団法人 富山県アイバンク理事長 大黒 幸雄 6
祝 辞	富山県知事 石井 隆一 7
	富山市長 森 雅志 8
	公益財団法人 日本アイバンク協会理事長 金井 淳 8
	ライオンズクラブ国際協会334-D地区ガバナー 木村 正明 9
	公益財団法人 富山県善意銀行理事長 松任 敏雄 9
	富山県医師会会長 岩城 勝英 10
	富山県眼科医会会長 石田 俊郎 10
献眼者、開眼者の皆さま	11
献眼者ご芳名	12
献眼者ご遺族の手記	14
開眼者の手記	21
富山県アイバンクの歩み（1991年/平成3年～2012年/平成24年）	23
[座談会] 奉仕の心つないだ20年	32
資料 富山県の年度別・献眼登録者及び献眼者数の推移	36
全国の年度別・献眼登録者及び献眼者数の推移	36
全国アイバンクー覧表	37
公益財団法人 富山県アイバンク設立20周年記念大会組織図	38
賛助会員ご加入および寄附金・募金のお願い	39
編集後記	40

表紙写真：氷見海岸から見た虻が島と劔岳
写真提供：上野 俊昭（氷見市）

公益財団法人富山県アイバンク 設立20周年を迎えて

公益財団法人
富山県アイバンク理事長

大黒 幸雄



今日ここに、富山県知事石井隆一様、日本アイバンク協会理事長金井淳様を始め、多数のご来賓のご出席を賜り、又、ご献眼頂いたご遺族様、そして我々アイバンクの母体である、ライオンズクラブ334-D地区木村正明ガバナーに率いられる富山県ライオンズクラブスタッフの皆様のご参加を頂き、設立20周年記念式典を迎える事が出来ました事を、心から感謝申し上げます。

平成3年、富山県の承認を頂き、平成4年に厚生省（現 厚生労働省）の認可があり、正式に発足し今日に至りました。

今年8月現在、献眼登録者は19,492人。設立以来、279人の方の尊い献眼を頂き、442人の方が目に光を取り戻しておられます。

今日の実績は、設立に努力頂いた県下ライオンズクラブ会員各位と、行政のご指導、そして多くの県民の方々のご理解の賜であります。

しかし、まだまだ趣旨徹底の為の努力を致さなければと決意致しております。

記録では、1789年フランスで初めての角膜移植手術があり、1926年日本でも実験としての移植作業が行われ、2年後、1928年ソ連と日本で同時に全層角膜移植が成功し、世界的な大発見と世界に喧伝されました。

このような眼科医学の進歩を背景にして、厚生省にその効果的な手術の法的許可を願ったのですが、厚生省での審議未了が延々と続き、ついに1957年岩手医科大学今泉教授が法律許可の無い中で、人道的見地に立って移植手術が行われました。

しかし、それが法律に抵触するとの新聞報道から、大きな法的問題が提起され、最高検察庁まで巻き込む事件となりました。

そして、調査していた最高検察庁の正式見解が発表され、「社会性に富んだ正当な医療行為で、道徳的・人道的に見て犯罪の成立は認められない」とし、角膜移植法案の早期決定が無い所に罪があると政府に直言され、アイバンクへの道が開けたのです。

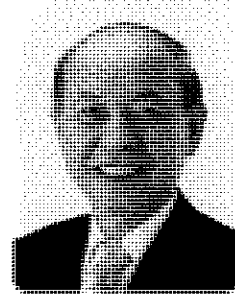
現在、県内病院のご努力で、院内コーディネーター制度を立ち上げ、県知事からの委嘱を頂き、理解者を増やす等の努力を致しております。

先人の努力を今に生かし、人類愛の精神からスタート致しましたこの事業に対して、今後も強くご支援頂く事をお願い致します。

われわれも、20周年を迎え今日の感激を契機に益々の努力を致す事をお誓い致します。

公益財団法人富山県アイバンク 設立20周年記念誌に寄せて

富山県知事
石井 隆一



このたび、公益財団法人富山県アイバンクが設立20周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴財団には、平成3年12月の設立以来、会員相互の固い結束のもと、献眼登録の普及啓発、角膜移植者の募集登録、医療機関との連携など幅広い活動を通して、地域保健医療の充実向上に多大なご貢献をいただいています。また、平成21年には富山県内では初めて、公益財団法人に移行され、公益性の高い、より信頼される組織へとさらなる発展を遂げられました。

ここに、大黒理事長をはじめ、歴代役員並びに会員の皆様方の長年にわたるご努力に対し、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

これまでの皆様方の献身的なご活動の結果、献眼により442人の皆様喜びの灯を取り戻されていると聞いています。献眼をされた皆様と、悲しみを乗り越えてご理解、ご協力をいただいたご遺族の皆様方に対し、深く敬意を表します。

さて、平成22年7月に「臓器の移植に関する法律」が改正され、親族に対し臓器を優先的に提供する意思を書面により表示できるようになったことや、本人の臓器提供の意思が不明な場合にも、家族の承諾があれば臓器提供が可能となったこと、15歳未満の者からの脳死下での臓器提供も可能になったことなど、移植医療は新しい時代を迎えています。

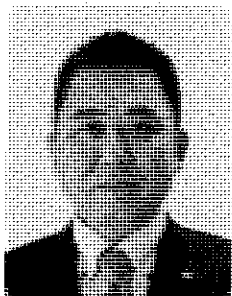
こうしたなか、県では、病院内で移植の調整役を務める「臓器移植院内コーディネーター」の委嘱や連絡会の開催により、その活動を促進するとともに、関係各病院にポスター、リーフレットを配布するなど、アイバンク事業等への活動支援や県民への普及啓発に取り組んでいるところです。

どうか、貴財団には、このたびの設立20周年を契機として、角膜移植を望まれる方が一人でも多く移植を受けられ、視力が回復するよう、今後とも献眼思想の普及啓発と登録の推進に、一層のご尽力をいただきますようお願い申し上げます。

また、この記念誌の発刊により、献眼していただいた皆様の崇高なご遺志が未永く受け継がれ、献眼の輪がさらに大きく広がることを願ってやみません。

おわりに、公益財団法人富山県アイバンクの限りないご発展と会員の皆様方のご健勝、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申し上げます。

公益財団法人
富山県アイバンク
設立20周年を
祝して



富山市長

森 雅志

このたび、公益財団法人富山県アイバンクが設立20周年を迎えられますとともに、記念誌を発刊されますことを心からお祝い申し上げます。

富山県アイバンクにおかれましては、角膜移植の普及啓発活動をはじめ、献眼者の登録や角膜の公正・公平な斡旋など、地域医療の発展と市民の健康・福祉の向上に大きく貢献されてきたところです。

これも偏に、歴代役員の方々や関係各位の献身的なご尽力の賜物であり、長年にわたる不断のご努力に対し、敬意と感謝の意を表する次第です。

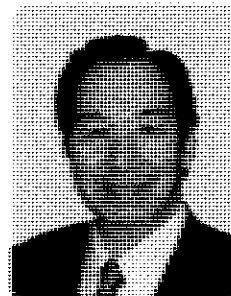
また、アイバンク活動の趣旨を理解され、崇高な志により献眼をされました方々に、心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様に対し改めて深く敬意を表します。

さて、角膜移植により多くの患者さんが光を取り戻されており、今後も角膜移植をはじめとする移植医療全般の更なる発展が期待されています。

市といたしまして、市民一人ひとりが主体的に生活習慣の改善や健康の保持増進に取り組めるよう、様々な健康情報の提供や健康相談の充実を図るとともに、地域、家庭、企業が連携した健康づくり活動の推進に努めてまいりますので、皆様方にはより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、富山県アイバンクにおかれましては、この記念すべき節目の年を新たな飛躍の契機とされますとともに、今後の限りないご発展と、皆様方のますますのご健勝、ご多幸を祈念いたします。

公益財団法人
富山県アイバンク
設立20周年
お祝いの言葉



公益財団法人
日本アイバンク協会理事長

金井 淳

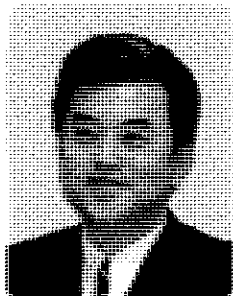
富山県アイバンクが設立20周年をお迎えになり、日本アイバンク協会を代表して一言お祝いのご挨拶を申し上げます。

大黒理事長をはじめアイバンク、県、眼科医会並びに富山大学医学部眼科学教室、ライオンズクラブの方々が今日まで富山県アイバンクの発展にご尽力されましたこと、記念すべき式典を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

富山県アイバンクは平成3年に設立され、広く県民へアイバンク事業の理解、献眼登録推進運動を努められてきております。平成23年度の実績を見てみますと、献眼者数は19名、移植使用眼数は33眼の実績を挙げております。開設以来279名の方が献眼をされております。平成9年臓器移植法施行後、献眼活動を一層推進するためにアイバンク協会が認定するアイバンクスタッフを設置され、普及啓発活動の一環として医療機関でのグリーンケアとしてのエンゼルメイク講習や講演会を開催され、また、一般県民へは街頭での啓発活動を各地で積極的に実施しております。そして、記念すべきこの年に我が国におけるアイバンク活動の推進に著しい貢献をした個人及び団体に授与する今泉賞を井村東司三名誉理事が授与されました。

最後に大黒理事長をはじめ、アイバンクを支えてくださっている関係各位がアイバンク設立20周年を契機として、献眼推進活動に一層ご尽力され、富山県アイバンクがますますご発展されること、そして記念式典にご出席されている皆様方のご健勝を祈念して私の挨拶とさせていただきます。

20周年を祝して



ライオンズクラブ国際協会
334-D地区ガバナー

L. 木村 正明

この度、公益財団法人富山県アイバンクが設立20周年をお迎えになり、盛大な記念式典を開催されますことに富山県・石川県・福井県をエリアとする334-D地区のライオンズクラブを代表して心よりお慶び申し上げます。

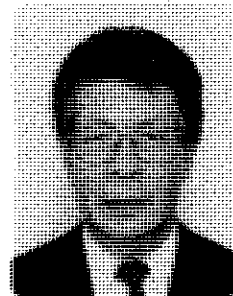
1925年アメリカのセダーポイントにおけるライオンズクラブ国際大会で、三重苦の聖女と呼ばれたヘレン・ケラー女史が盲人のための援助を訴えて以来、ライオンズにとって視覚障害者福祉・視力保護活動が主要な奉仕活動になっています。1944年4月に、ニューヨークに世界発のアイバンクが設立されて以来アメリカにおいてライオンズが角膜幹旋の活動を展開してきました。

日本においては、1964年、東京関東ライオンズクラブを中心に6クラブがライオンズ・アイバンク協会を発足させるなど、ライオンズが献眼運動の先頭に立ってきました。

この富山県においても、平成3年12月に富山県からの1,000万円と富山県内のライオンズクラブから4,000万円を合わせて5,000万円を基本財産として富山県アイバンクが設立されたのであります。以来20年間、富山県アイバンクの活動により、多くの方々から尊い献眼を頂き今日まで442人が希望の光を取り戻すことが出来ました。誠に敬意と感謝を申し上げる次第です。

富山県アイバンクの20周年を契機に、県民の皆様がアイバンク事業についてより一層の理解がされ、更に献眼活動が充実・発展されることをご祈念申し上げ、お祝いの言葉とします。

温かな絆



公益社団法人
富山県善意銀行理事長

松任 敏雄

この度、公益財団法人富山県アイバンクが設立20周年を迎えられました。誠におめでとうございます。

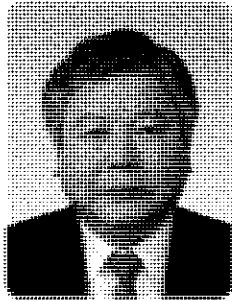
富山県アイバンクは平成3年12月の設立以来、角膜移植により疾患患者様への光を取り戻すための事業を営々と行ってこられました。患者様からの喜びの声に接するとき、献眼という尊い善意に限りない敬意を表する次第です。

現在の社会情勢は、周りの人々に対する敬愛の心をもつ余裕がなかなかもてない状況にあります。ところが、3.11の大災害を経験して以来、国民の心は「絆」という一言に凝縮されて、愛の手を必要としている方々に集まろうとしています。貴公益財団法人の事業展開に愛の光の提供という「助け合いの真心・温かさ」をみることが出来ます。

公益社団法人富山県善意銀行におきましては、県民の皆様が善意を集め、善意銀行活動を展開しています。公益法人として先行する富山県アイバンクの歩みを参考にしながら、本行の掲げる五つの事業のさらなる充実を目指していく所存でございます。

視力障害者援助のための活動を着実に続けておられますアイバンクの皆様方に、改めまして敬意を表しますとともに、今後の限りないご発展をご祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

法人設立20周年を 祝う



富山県医師会会長
岩城 勝英

このたび、公益財団法人富山県アイバンクが法人設立20周年を迎え記念誌を発刊されるにあたりまして、富山県医師会を代表して一言お祝いの言葉を申し上げます。

富山県における献眼運動は、昭和38年10月10日、県善意銀行内に「眼球預託口座」が設けられて以降、知識の啓蒙普及、献眼者の募集登録等、関係者の方々の地道な活動により支えられてきました。平成3年12月に「財団法人富山県アイバンク」として正式に発足されてからは、一層充実した活動を続けられ、多くの方が失明の危機から救われました。現在、県内の献眼登録者は1万9,400人を超え、これまでに442人の方々が、献眼による角膜移植で光を取り戻しておられます。これもひとえに、理事長様をはじめ関係の皆様方の献身的な活動の賜物であり、心から敬意を表する次第であります。

しかし、待機患者数に比べ献眼数が少ないという現状もあり、この事業の難しさを痛感するものであります。

今、医療を取り巻く環境は激しく変革しておりますが、どのような時代にあっても、我々医療人の社会的責任は重く、よりよい医療を提供することは使命であると考えます。私共医師会は、富山県アイバンクの皆様とともに、献眼登録推進普及運動を強く進めていきたいと思っております。

最後に、富山県アイバンクのますますのご発展と、崇高な志をもって献眼されました皆様のご冥福をお祈りいたしまして、設立20周年のお祝いの言葉といたします。

公益財団法人富山県アイバンク 設立20周年を祝して

富山県眼科医会会長
石田 俊郎

富山県アイバンクがその設立から20年を迎えられ、本日その記念式典を盛大に催されますことを心よりお祝い申し上げます。一言で20年と言いますが、生まれた子供が成人式を迎える年月であり、設立から維持管理にあたってこられた方々のご尽力には敬意を表します。

さまざまな原因から角膜障害のために視力を失い、角膜障害を除けば眼球の機能を十分に残している人にとって角膜移植は人生を一変させる治療です。これによってそれまで不可能であったことが可能になることも稀ではありません。以前は角膜全層移植が主流でしたが、現在では角膜内皮移植などパーツ移植により移植角膜の拒絶反応・術後炎症などの軽減化がなされるようになりました。これにより視機能の顕著な改善が得られるようになり、多くの人に光明を復活して頂けるようになってきました。

富山県アイバンクには現在2万人近い献眼登録者があり、この20年間で献眼者も270名を超えています。この間、442名もの方々が角膜の提供を受けられ社会復帰をされています。アイバンク設立以後その広報活動により献眼登録者が増加しましたが、臓器移植法施行以後その数が以前に比較し減少していることがやや気になります。まだまだ多くの患者さんが角膜移植治療を待ち望んでおられます。富山県眼科医会としても、会員の病・医院を通じ更に献眼登録者が増えますよう啓発活動を行っていかねばならないと考えております。

富山県アイバンクの今後ますますのご発展をお祈りし、お祝いの詞とさせていただきます。

献眼者、開眼者の皆さま

このたび、公益財団法人富山県アイバンク設立20周年記念にあたり、献眼をいただきました崇高なお心に感謝し、またご家族と関係者の方々の深いご理解とご協力に感謝し、ご芳名をご記帳させていただきました。

おかげさまでこの20年間、442人の方々が角膜移植手術を受けて光を取り戻し、社会復帰をされておられます。

ありがとうございました。ここに謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。

※角膜移植を受けられた方々の人数は、平成24年8月末までの数です。

献眼者ご芳名

■平成19年6月から平成24年7月まで

献眼年月	献眼者名	地区
平成19年7月	加門 昭雄様	富山市
平成19年7月	長井八重子様	富山市
平成19年8月	高田 久榮様	立山町
平成19年11月	今井 仁成様	高岡市
平成19年12月	谷内 信子様	氷見市
平成20年1月	船屋 定義様	黒部市
平成20年1月	長谷川茂子様	富山市
平成20年2月	匿名希望	富山市
平成20年3月	匿名希望	黒部市
平成20年4月	匿名希望	朝日町
平成20年4月	畑田 修三様	富山市
平成20年4月	大津 光子様	射水市
平成20年5月	玄澤 齊様	南砺市
平成20年5月	加来 利貞様	富山市
平成20年6月	長田 ヨシ様	入善町
平成20年6月	田邊 正英様	富山市
平成20年6月	佐藤 富美様	富山市
平成20年7月	高野 輝子様	高岡市
平成20年8月	匿名希望	黒部市
平成20年9月	飛田 與吉様	入善町
平成20年10月	石黒 桂二様	富山市
平成20年10月	中村 禎子様	富山市

献眼年月	献眼者名	地区
平成20年11月	伊勢 龍彦様	高岡市
平成20年11月	和田 近子様	富山市
平成20年11月	金井 辰雄様	富山市
平成21年1月	笹木 宗市様	富山市
平成21年1月	廣野 克様	富山市
平成21年1月	澤飯 淳様	富山市
平成21年2月	熊野 祐幸様	黒部市
平成21年2月	堀田 宗作様	上市町
平成21年2月	渡部 佐敏様	黒部市
平成21年3月	高橋 寛様	富山市
平成21年4月	川田美也子様	入善町
平成21年4月	高井かしく様	高岡市
平成21年6月	宇治 稔様	富山市
平成21年6月	岡本 キノ様	富山市
平成21年7月	山本 良様	富山市
平成21年8月	岡田真一郎様	入善町
平成21年9月	山崎 綾夏様	射水市
平成21年10月	中田 勇様	入善町
平成22年2月	有澤 澄子様	富山市
平成22年2月	山城 静枝様	富山市
平成22年3月	吉田美枝子様	高岡市
平成22年4月	永川 都様	富山市

献眼年月	献眼者名	地区
平成22年 5月	岡本登世子様	富山市
平成22年 6月	藤野 正晴様	富山市
平成22年 6月	匿名希望	砺波市
平成22年 9月	酒井 幸枝様	富山市
平成22年 9月	匿名希望	高岡市
平成22年10月	山田 金治様	富山市
平成22年11月	荒田 清様	小矢部市
平成22年11月	高田 善夫様	氷見市
平成22年11月	水上 新松様	富山市
平成23年 2月	匿名希望	富山市
平成23年 2月	山崎與志夫様	富山市
平成23年 3月	宮川のぶ子様	高岡市
平成23年 3月	井波ゆり子様	射水市
平成23年 3月	武田 久義様	入善町
平成23年 4月	匿名希望	富山市
平成23年 4月	吉澤 鍵吉様	高岡市
平成23年 5月	高崎 清允様	立山町
平成23年 5月	朝日千鶴子様	富山市
平成23年 8月	内山 俊子様	高岡市
平成23年 8月	高野 英雄様	高岡市
平成23年10月	佐野 辰一様	高岡市
平成23年11月	本田 功様	富山市

献眼年月	献眼者名	地区
平成23年12月	和気 陽子様	富山市
平成23年12月	藤澤 榮一様	富山市
平成23年12月	佐々木 弘様	氷見市
平成24年 1月	向川 義則様	小矢部市
平成24年 1月	池田 勲様	南砺市
平成24年 1月	澤田 サヨ様	富山市
平成24年 1月	大和まこと様	富山市
平成24年 2月	匿名希望	高岡市
平成24年 2月	匿名希望	魚津市
平成24年 2月	桃井 伸子様	富山市
平成24年 2月	匿名希望	富山市
平成24年 4月	中野 長保様	射水市
平成24年 5月	辻 信之輔様	富山市
平成24年 5月	匿名希望	富山市
平成24年 5月	匿名希望	朝日町
平成24年 5月	西田 修様	上市町
平成24年 6月	匿名希望	
平成24年 6月	碓井 邦雄様	立山町
平成24年 7月	川島 潔様	氷見市
平成24年 7月	米澤英一郎様	高岡市
平成24年 7月	小林 宗一様	南砺市

※平成19年5月以前の献眼者の方々のご芳名は、『富山県アイバンク10周年記念誌』並びに『富山県アイバンク15周年記念誌』に掲載してあります。

献眼者ご遺族の手記

当アイバンクでは、定期的に「富山県アイバンクだより」を発行しております。その都度、ご遺族の方にお願ひして「献眼者ご遺族の手記」を載せさせていただきますいております。本当に感動的なお手紙に接し、ぜひ多くの方に読んでいただきたいという思いにかられます。

今回の20周年を機会に、これまでお寄せいただいた手記から12通を再録させていただきました。何卒、ご一読いただきますようお願い申し上げます。

主人の献眼に想う

高野 光子

平成23年8月26日午後9時57分、50日間の入院生活にピリオドを打って、主人は90歳と8カ月の人生に幕をおろしました。

主人は、シベリア抑留の経験があるせいか大変我慢強く、日頃から何事もなるようにしかならないという人生観を持っておりました。入院中は、医師や看護師の方々のなざる事に、どんなに苦痛でも文句も言わず、常に感謝していて本当に良い患者だったと思います。

献眼は昭和59年4月5日に登録しておりました。その頃はまだ献眼活動の初期で知名度も低い頃だったと伺っています。そのためでしょうか、主人のカードに書いてある連絡先も変わっていて、なかなか連絡がとれませんでした。アイバンクだよりが来ていたことを思い出しそこへ電話したら、直ぐに医師ら3人の方が自宅に来て下さりホッとしました。幸いなことに、献眼に理解の深い古くからの友人お二人の方が見守って下さる中、厳粛に丁寧に約1時間かけて処置が行われました。処置のあと、全く以前と変わらない穏やかな主人の顔がありました。お二人は、現アイバンク理事長の大黒様と、ご両親の献眼をなさった山下和夫様で、お二人とも家が近いこともありすぐに来て下さり心強い思いがしました。

葬儀の際には、感謝状や弔辞などを頂き、私の友人はとても感銘深い葬儀だったと言ってくれました。弔辞の中で、主人の角膜は細胞の数も多く綺麗でお二人の方の眼に光が戻ったと言われ、本当に良かったと思います。私もまた主人がどなたかの眼の中で生きており、私を見守っていてくれると思い、感動し、嬉しくなりました。



「飛鳥」船上（平成18年8月26日）

葬儀のあと何人もの方から、「献眼は高齢でもいいですね」と意外そうに言われました。私にはまだまだ献眼に対する認識が低いように思われ、主人の献眼が少しでも献眼運動の啓発に役立ったのなら有難いことだと思いました。

107歳の角膜 86歳に ～移植ドナー国内最高齢～

長田 雅子

角膜は賜しもの今日よりはふたつの生を生きむと思ふ

これは今年の歌会始めの入選歌です。この歌に出会って、この方は母の目を移植された方ではないかと電気に打たれたように感じました。

母は1901年生まれ、昭和天皇と同年。その年は記念すべきノーベル賞元年でした。(第1回の受賞者は誰でしょう。私達は健康な人でも毎年お世話になっています。)

結婚しても貧しくスキとクワで田を耕し、田植え唄をうたって激しい労働をのりこえたのです。声が良く歌が大好きでした。老いても諷われればすぐに田植え唄を披露しました。

母が献眼登録をしたのは昭和57年。村の集まりにお医者さんが来られて、献眼のすすめがあったのでしょう。「老人会がこぞって登録」と新聞記事にもなりました。記事は長い間大切にしていた、私は母が亡くなったら献眼、と心に決めていました。

母が亡くなったのは平成20年6月3日、ほんの10日前までデイサービスに通っていて、もう無理ね、と自宅に居たのです。家で亡くなるのは本当に自然で、亡くなる前日も当日も次の日も同じ時間がゆったり流れているのですね。苦しそうなときでも手拍子してうたう様子を見せるのでまだまだ生きて思っていました。デイサービスでも苦勞してきたことなど一切語らず明るい人でしたので、「ヨシさん大好き」と若い職員にも人気者でした。

いろいろな死を見てきて、亡くなってすぐに燃やしてしまうのは悲しいと思い、母は献体させていただきました。

献体だから、眼は片方だけね、と摘出した眼を大切に持っていかれました。そしてエンゼルメイクをしていただいて……

母は美しく若返り、私達はそれから3日間「ばあちゃん、ごはん食べよ」と声をかけて過ごしました。

数週間後、角膜の提供を受けた方からお便りが届きました。目が見えるようになった喜びが美しい文字と文章で綴られていて……私達は感動しました。どれだけの人にこの手紙を見せたことでしょうか。私の周囲では献眼登録の輪が広がっています。誰もが私の目も、と云える世の中になればいいな、と思うのです。



ひ孫さんとともに

秋に大学の慰霊祭に招かれ、学長はじめ医学生すべての皆さんが献花される姿に心打たれました。母の献眼のお陰で私達は大きな喜びをいただいております。

(第1回のノーベル賞受賞者はレントゲンです。)

老母が、得意満面にした日々

岡本 武勇



母が逝ってはや1年が経ちました。享年95歳、大往生でした。大正の初めに生まれ、昭和、平成へと、さまざまな苦勞を重ねてきました。90歳を過ぎても畑に出て、90度に曲がった腰を伸ばしながら「健康ですちゃ」と笑っていました。

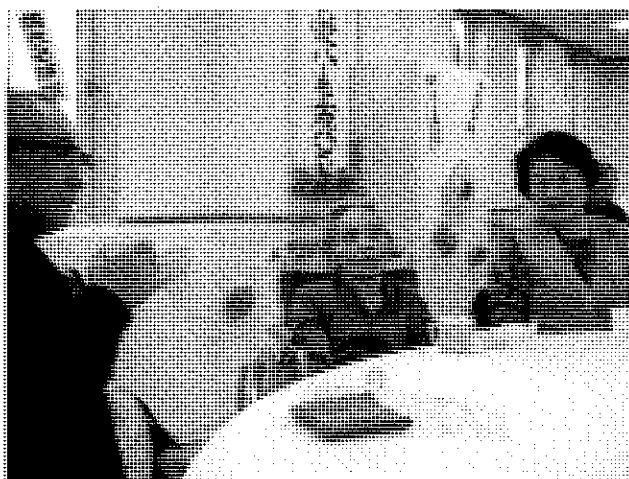
母が若妻の頃、日華事変が勃発していました。夫が応召され、家は「出世軍人留守家庭」となって、女手一つで1ヘクタール余もの田を耕し、幼いわれわれを育ててい

ました。それこそ、戦前、戦中、敗戦、戦後復興、食糧増産などといった社会的な背景は、母にとっては正に苦勞の連続で、孫を抱く以外には楽しみの機会がなかったように思われます。

ところが、そうした苦勞の中でも晩年になって「僅かの4カ月間」でしたが、生涯で初めてという「楽しさ・嬉しさが満面にあらわれた」日々を体験していました。それは、亡くなる2年ほど前の頃です。

母は、腰痛を治療するために市内のA病院へ入院しました。ところが快方に向かうどころか、寝たきりの重病人になってしまいました。母の希望で市内のある老人保健施設の方へ入所させました。すると、この施設でのケアが母にはすこぶる合ったようで、入所してから暫くすると少しずつしっかりした兆しが見えてきたのです。暫くして、寝たきりから車いすのある生活に変わりました。しかし、それまで自転車に乗った経験がない母でしたから、車いすに乗せるのが難しくて車いすの扱いには大変手間どっていました。母も、何とか看護師さんの手を借りないと苦心に苦心していたようでした。その甲斐があってある日、自力でベッドから車いすに移って動かせるようになっていたのです。母は実に喜んでいました。母の喜ぶ顔を見て、われわれは非常に驚き感謝しました。

朝・昼・夕と午前・午後のおよつの時間には食堂ホールへ、またラウンジで新聞に目を通したり、



気晴らしにと広い施設内を一回りしてくるといった具合に、それはそれは楽しい日課に変わったのです。奇跡！とも思えるような母の様子には、「長い人生の中で、もっとも楽しい“有閑階級”の日々が訪れている」ことを窺わせていました。「小さな躯体を車いすに沈めて、得意満面に漕いで行く様子」、「幾度も幾度もふり返りながらホールの人ごみの中へ紛れていく様子」、その母の姿を見ていてホントに愛おしく思われたのでした。いまでもわれわれの目に焼き付いています。



“丸くなりし小さき背沈めて車いす漕ぎつつ母は我を見返る ぶゆう”

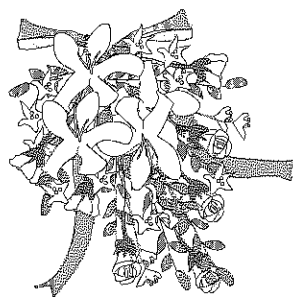
しかし、人の運命とは分からないものです。A病院での「寝たきり治療」から解放され、生涯最高の有閑階級の楽しい暮らしをしたのもそれは僅かに4カ月間でした。母に不遇な運命が待っていました。お昼時間、施設のおおぜいの中で車いすの母がぼろりと箸を落とし、意識不明の状態で倒れたのです。脳梗塞でした。

緊急入院してから約500日間の闘病でした。「あえがろ（ありがとう）」のお礼の言葉も失い、再び車いすをと願ったが叶わず、静かに逝ってしまいました。

「人さまのために」という、母の日ごろの心を大事にして献眼いたしました。アイバンクの方から「とってもきれいな角膜でしたよ」と褒められ、また、移植を受けられた匿名の方から感謝の御礼状も頂きました。

一周忌を間近にしたある日、桜花の散る頃でしたが、われわれは美しい並木の通りを歩いてみました。「きれいな角膜が、どなたの目に移って、美しく映しているだろうかね」、われわれは期せずして口にしていました。そして、桜の古木が母のように思えて、散りゆく花びらを掬っていました。

“いづくにて爛漫の花見ていますか移植されたる亡母の角膜 ぶゆう”



母と献眼

永川 武文

平成22年4月5日午前6時12分母は眠るように静かに89年と8カ月の人生に幕を下ろし、そして献眼をさせていただきます。

献眼のきっかけは、私が永年勤めた公務員を退職したのを機にライオンズクラブに入会させてもらい、そこでクラブの活動の1つである四献（献眼、献血、献腎、献髓）推進運動を知りました。

そして、ある時の例会でアイバンクのコーディネーターの方を招いて、献眼に関する意義や現状をお聞きする機会があり、それならばと私自身も登録をしました。

その後、医師から母の危篤を知らされた時に私の^{きょうだい}弟妹と家族に献眼の意向を話したところ、理解を示し賛成してくれたことからアイバンクへ連絡し、当日は処置のあと丁寧にエンゼルメイクを施していただき、母は10歳ほど若返ったようなきれいな顔で帰宅致しました。

そして、葬儀のあと参列していただいた何人もの方から「お母さんは良いことをされましたね。私もそうしようかな？」と声をかけていただき、家族ともども安堵させていただきました。

また、母は昔から乗り物には極端に弱く、路線バスに10分間乗っただけでも家に帰って寝込んでしまうような人でしたから私の知る限りでは“旅行”と名の付くものには1度も行ったことがないと思います。

このことから、葬儀の最後で「……、しかし最後に乗り物酔いの心配もなく、また帰りの心配もなく、そして一番遠い所へ旅立っていきました。」と挨拶させていただきました。

それから数週間後、移植を受けられた方からのお礼の手紙の中にこんな短歌が1首したためてありました。

病みし眼の 我も津和野を 訪ね行く
老いたる母に 導かれつつ

この歌から、たぶん旅行のお好きな方とお察し致します。

だとすれば、母は今頃この方の眼の一部となり、一緒に自分の行ったことのないいろんな所を旅していることでしょう。

そう思うと今回の献眼を母も喜んでいてくれるのではないかと、家族とともに心がやすらぎます。



献眼までの顛末

松倉 正機

富山の姉から朝8時に母死去の電話があり、妹と一緒に厚生連高岡病院へ着いたのが亡くなってから5時間後の午前11時頃。母は看護師さんに綺麗に化粧をしてもらい、かなり若返ったみたいで、今にも眠りから覚めるような気さえしました。

「もう2年頑張って100歳まで生きるよ」と言っていたのに、倒れて1週間で旅立った母を見ながら涙が込み上げてきましたが、ふと思いついたのがアイバンクでした。京都から馳せ着けた喪主である兄に献眼を提案して快諾を得、姉や妹には兄から献眼することを伝えてもらいました。その時点で死後5時間半余が経過し、97歳という年齢もあって献眼が可能かどうか危惧していましたが、OKということで、正午過ぎには病院からの手配でアイバンクより医師とコーディネーターの方々が駆け付けて、すぐに病室での眼球の摘出作業が始まりました。

実は、私がこのような現場に立ち会うのは伯母と父の従弟の過去2回ありましたが、実際に摘出を見るのは初めてでした。その時私は、この後誰か見知らぬお二人の目の中で、母が生き続けるのだという嬉しいような気持ちになったのを覚えています。そして2日後の斎場の骨揚げ室で骨だけになった母を見て、献眼して良かった、またどこかで母に会えるとしみじみ思ったものでした。数日後、コーディネーターの入江さんより“本当に綺麗な角膜でした”という電話があり、母の目が役立って良かったとほっとしました。

新聞では、献眼登録者で死亡時の提供申し出がなかった人が61人もいたと報道されていました。その内の3分の1の方でも提供の申し出をされたなら、それを待ち続けている19人の目の不自由な方に光を届けることが出来たのにと残念に思ったものです。

私はこの後、人生最後の奉仕活動である献眼を、しっかりと家族に伝えていくつもりです。



永遠に18歳のまま

山崎 仁嗣

献眼をしてから間もなく3年。永遠に18歳のままの娘の角膜は、移植された2人の方の人生の光となって輝いている事でしょう。当時、高校3年生で卒業後の進路を模索していた娘に、就職先が決まった報告をしました。普通に考えると、故人から眼を摘出すると言おうものなら生前の移植登録でもしていない限り、おそらく肉親から反対する意見がでる事でしょう。しかし、幸いにも私の家族の中では、皆が同意してくれました。と言うのも、娘は生まれてすぐに心臓病が見つかり、物心が付くまでに当時の医薬大や、大阪の病院で幾度となく手術を受け、その都度生死をさまよいながらも、多くの輸血や医療技術に救われ、日常生活が送れるまでになりました。私達家族は娘の病気と関わる中で、他の重篤な病気を抱え、闘病している患者さん達と接する機会も日常のようにあり、暗黙の内に移植医療についても関心を示すようになりました。実際に、私自身も早くから骨髄バンクに登録をしました。又、私の両親も死んだら今後の医学の為にと献体を申し込みました。娘の存在によって、私達の医療に関する考え方が大きく変化した事は違いありません。このような経緯もあり、これまでに娘が受けた恩恵へのお返しの意味もこめて、献眼を決意した事に娘も理解してくれると考えています。あの日、医師に献眼を申しでました。同じ大学病院の中にアイバンクの事務局があったので、すぐに担当の方より説明を受けました。

初めての事で、多少の不安が交錯しましたが、摘出するのに約1時間位だったと思います。術後の娘の顔は、生前の顔と全く変わりなく、改めて医療技術の高さに驚きました。最後は、エンゼルメイクを施してもらい、かわいい顔のまま見送る事ができて感謝しております。今現在は、娘を嫁に出した親の心境で、日々を送っています。



開眼者の手記

眼が不自由なために一生暗やみの中で過ごさなければならない方々が、全国で35万人おられます。そのうち約5%の方々が、角膜移植によって再び視力を回復することができるといわれています。

これまでに幸運にも角膜移植が行われて開眼者となり、その喜びの声が富山県アイバンクに寄せられています。

12人の方の喜びの文章を掲載させていただきましたので、ぜひ、お読みください。

お墓参りで手を合わせて参りました

あなた様の角膜をいただき、お医者・看護師さんのお陰で物も見え、少しずつ細かい字も見えるようになりました。

退院しお墓参りに行き、あなた様のことも手を合わせて参りました。

今後少しでも長生きしたいと願っています。大変うれしく感謝の気持ちでいっぱいです。

本当に有難うございました。(70歳代/女性)

家族も大変喜んでおります

此の度、富大附属病院で角膜の移植手術を受けさせていただきました。角膜がとことん悪化して急な手術でしたが、丁度献眼されていた角膜のおかげで無事移植手術をさせていただきました。本当にありがたく、心から感謝申し上げます。家族も大変喜んでおります。今週中に退院できる予定になっております。

余分になりますが、私の家族もライオンズクラブの一員として、献眼登録を致しております。大変良い事をしているのだなど、内心誇りに思わせていただきました。本当にありがとうございました。

(70歳代/女性)

残る人生を有意義に過ごしたい

この度は角膜をご献眼下さったドナーの方と、ご家族様のご厚志に厚く御礼を申し上げます。小生は70歳代の老人ですが、ここ10年来、水疱性角膜で苦しんでまいりました。今回、ご献眼下さった角膜で、昨年末に左眼の移植を受けました。

幸い術後、視力も出てまいりました。これもご遺族様のご厚情の賜物と感謝し、ご献眼下された角膜を大事に、残る人生を有意義に過ごしたいと考えております。

末尾ですが、ご献眼下されたドナーの方のご冥福をお祈りいたします。(70歳代/男性)

この目を大切にしていきたい

この度は、御家族様の大切な角膜を提供していただき、誠にありがとうございました。おかげ様でほとんど見えなかった目が見える様になり、明るく生活に張りができました。ひとえに御家族皆様の御理解あつてのことだと思ひ、とても感謝しています。

これからは生きていく限り、この目を大切にしていきたいと思ひます。

つたない文章ではございますが、感謝の気持ちを込めて、お礼の言葉とさせていただきます。

(30歳代/男性)

家族もとても感謝しております

謹啓 この度、ご縁があつて角膜を献眼して頂き、移植手術を無事に終えることができました。有難く思います。

今回手術したのは左目で、右目はもともと視力がほとんどない状態で、左目だけで生活していました。左目が角膜潰瘍という病気になり、移植しなければ両目とも見えない状態でした。

手術後、経過も順調で、目も少しですが見えるようになりました。退院後は、一人でトイレ・風呂など自分で少しずつできるようになっております。家族もとても感謝しております。

本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。(70歳代/女性)

永遠の宝物を頂き、私は幸せ者です

はじめまして。この度は宝物よりも大事な大事な目の角膜をご提供頂き、両手を合わせて、感謝感激で胸一杯で居ります。出来るものならば、今にも飛んで行き、仏前に両手を合わせ、御礼が言いたいです。

仏様の角膜は、生きていく私の目の角膜として生きています。私の二度目の人生、仏様の角膜に両手を合わせて、念仏する毎日です。それこそ太陽光、最大光を頂きました。永遠の宝物を頂き、私は幸せ者です。本当にありがとうございました。

(70歳代/男性)

散歩もできるようになりました

この度は私のために、大切な角膜を提供して下さいましたことに、先ず心から深くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。感謝の気持ちで毎日毎日を過せますのも、提供して下さいたからこそだと思っています。

もう少しで、退院してから丁度一カ月になります。この一カ月の間、一人でゆっくりと杖をつきながらですが、散歩もできるようになりました。又、三度三度の食卓の皿の色も、わかるようにもなりました。日、一日、一日と少しずつではありますが、よく見えるようになりましたことが、とてもとても嬉しいです。

簡単ではありますが、一筆お礼にかえさせて頂きます。誠に誠に、ありがとうございました。時節柄、どうぞお身体に気をつけて、お過ごし下さいませ。
(70歳代/男性)

生きて来て、よかった

この度は、私に角膜を献眼下さいまして、本当にありがとうございました。御遺族の皆様には心より厚くお礼申し上げます。

角膜移植後、安定し、先日退院することができました。家に帰って来て、物が良く見えて、こんなにうれしいことは、ありません。誕生日を迎え、角膜移植する前までは、病院に入院・通院の繰り返しでしたが、なかなか良くなり、暗い日々を過していました。家族には大事にされておりますが、目が見えないという、不安な毎日でした。

病院からお電話をいただいた時は、あまりに突然のことで、びっくりして夢の中のことかと思いました。自分自身にもどり、角膜を献眼して下さいた方、ご遺族の皆様には、ありがたくてありがたくて、言葉にならないくらい、うれしくて…。

角膜移植手術をし、病室にもどり、眼帯をはずされるまで不安で、眼帯をはずしていただいた時は、目の前が明るく先生のお顔がはっきり見えました。生きて来て、よかった。もう、天に昇った様な気持ちで、うれしくて、うれしくて…。

角膜を献眼して下さいた方、御遺族の皆様には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。この目を大事に、生きて行きます。角膜を献眼して下さいました方、御遺族の皆様には、心から御礼申し上げます。
(80歳代/女性)

以後経過もよく、よろこんでおります

この度は遺族の皆様のお好意により、献眼頂きましてお礼申し上げます。

おかげ様で移植手術を受け、以後経過もよく、よろこんでおります。遺族の皆様、及び関係者の皆様のお好意により献眼頂きましたこと、あらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。
(60歳代/男性)

献眼くださいましたご遺族様へ

この度は、大切なお方の角膜を頂戴し、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

私の夫は目の病気で角膜移植が必要になり、病院の先生にお願いしておりました。この度、志のある方にご献眼いただき、移植手術を受けることができました。今、入院中ですが、まもなく退院できるものと思っております。

私も、保険証に角膜の提供の意思表示をしたいと思っております。それがご恩返しの一助になればと思っております。

頂戴致しました角膜が、夫のひとみに定着しますことを祈りつつ、亡くなられたお方のご冥福をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

(患者の妻より 70歳代/男性)

私にとっては、命の目

角膜をご提供いただきましたドナー様へ。

私は生まれつき眼に障害があり、年々視力は悪くなっていました。そのため少しでも視力回復を願ひ、左眼の角膜移植をすることにしました。

桜の咲く頃、手術を受け、術後の経過も順調で、退院時に見た桜はなんてきれいだったことでしょう！

私にとっては、命の目です。頂いた角膜を大切にしたいと思っております。ありがとうございました。

(30歳代/女性)

このたびは娘のために大変貴重な角膜をご提供いただき、心より御礼申し上げます。生まれつき眼に障害があり、弱視のため硬レンズを長らく装用し、角膜に沢山のキズが生じたため、移植をお願いいたしました。おかげ様で優秀な先生による手術も成功し、本人も日毎に視力も増して大変喜んでおります。

ご遺族皆様のお温かいお心のこもった角膜、大切にすると本人も申しております。お会いして御礼申し上げねばなりません、この書面にて失礼いたします。ありがとうございました。(父母より)

第二の人生の出発点のような気持ちです

皆様にはご壮健のことと、拝察いたします。

さて、このたび、アイバンクの皆様をはじめ先方のご協力により角膜移植手術をして戴きましたこと、衷心より厚くお礼申し上げます。お蔭様で無事手術が終わり、明るく、そして視界が広がり、本当に嬉しく思っております。角膜を提供して戴いた方に心から感謝を申し上げるとともに、お礼を申し上げたいと存じます。本当に有難うございました。

私にとりまして、80歳を過ぎておりますが、第二の人生の出発点のような気持ちです。ご遺族様の温かいご支援を終生忘れることなく、楽しい人生を送りたいと思っております。

皆様のご協力に対し、心からお礼を申し上げて、ご挨拶にかえさせて戴きます。(80歳代/男性)

富山県アイバンクの歩み

1991(平成3年)～1997(平成9年)

全国47番目のアイバンクとして設立

昭和38年10月10日“眼の愛護デー”を記念して富山県善意銀行内にはじめて眼球預託口座が設けられました。その後、角膜移植についての正しい知識の普及、眼球提供者の登録、緊急に手術を必要とす

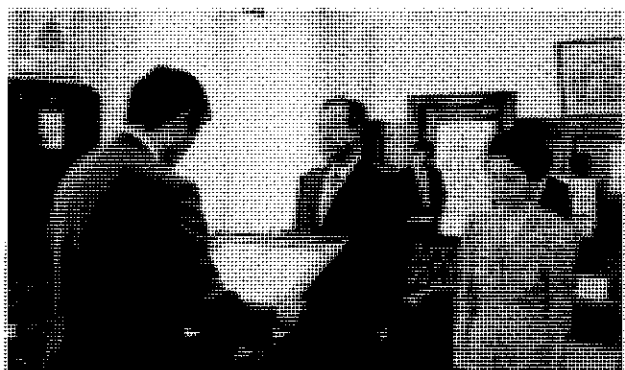
る患者に対する眼球の斡旋の業務を行うため、富山県民の福祉の増進を図るため、眼球斡旋機関として財団法人富山県アイバンクが平成3年12月に設立されました。



平成6年9月23日/'94フェスティバルオブミラージュにて募金箱をいただく(魚津LC)



平成8年8月30日/献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式



平成8年8月30日/献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式

〔1991年/平成3年〕

- 12月 富山県知事の設立許可
- 12月 理事長に家城潔氏就任、常務理事に高岸和男氏・大黒幸雄氏就任

〔1992年/平成4年〕

- 4月 厚生省(現 厚生労働省)へ眼球あっせん業について申請
- 6月 厚生省より眼球あっせん業許可

〔1993年/平成5年〕

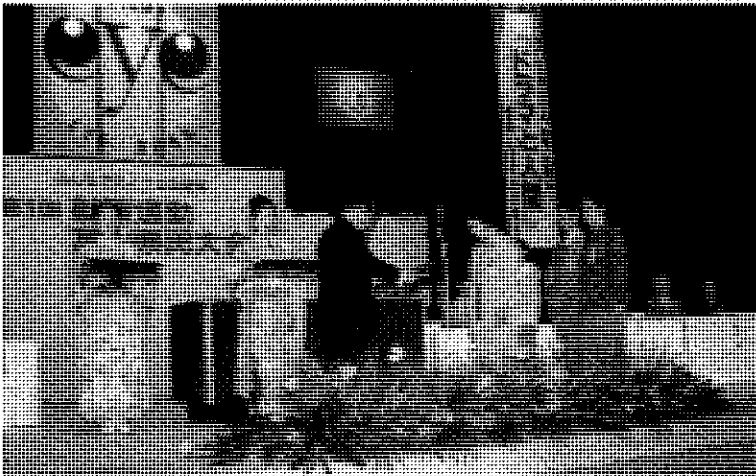
- 9月 北日本放送・FMとやま等で啓発普及CM実施
- 10月 富山テレビ「スーパータイム530」にてアイバンクの現状を放映
- 11月 北日本新聞に啓蒙活動広告を掲載
- 12月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式

〔1994年/平成6年〕

- 2月 理事長に井村東司三氏就任
- 6月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 10月 KNBラジオにて献眼者の遺族、移植を受けた方、理事長の三者インタビューを放送

〔1995年/平成7年〕

- 2月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 3月 広報誌富山県アイバンクだより創刊号発行
- 7月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 8月 広報誌富山県アイバンクだより第2号発行
- 10月 KNBラジオ「情報ナビゲーター」にて献眼登録普及啓発
- 10月 第1回献眼運動富山県民大会開催



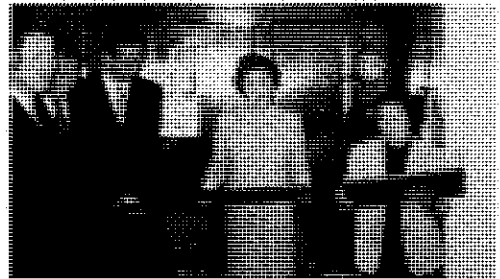
平成7年10月8日/第1回静岡県知事山内氏大会
(献眼者へ厚生大臣感謝状伝達)



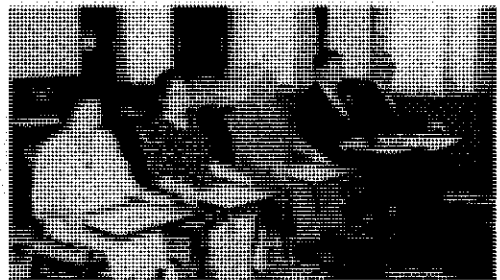
同 (クイズ「年々ほど」サ・献眼活動)



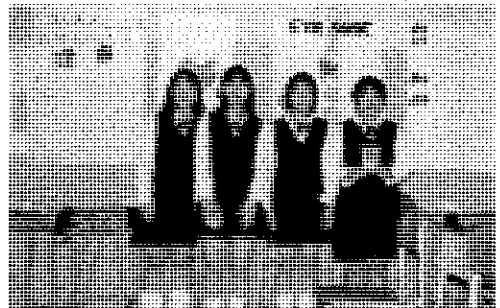
同 (ジェームス三木氏記念講演)



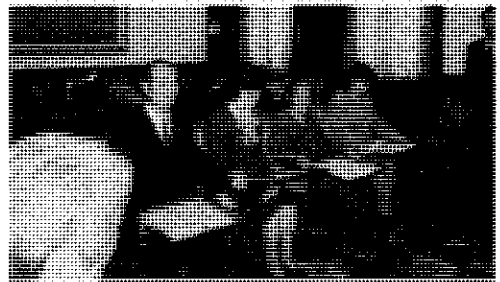
平成8年2月21日/献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式



平成8年7月30日/献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式



平成8年10月/富山県立大学附属高校放送部が学園祭にてアイバンクを取り上げて発表



平成8年2月27日/献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式

【1996年/平成8年】

- 2月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 3月 常務理事に高田眞氏が就任
- 4月 広報誌富山県アイバンクだより第3号発行
- 7月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 11月 広報誌富山県アイバンクだより第4号発行

【1997年/平成9年】

- 2月 眼球の強角膜片保存方法導入の報告

- 2月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 3月 ラジオたかおかの番組にて理事長・事務局が啓発活動
- 4月 アイバンク支援隊者菓子チャリティーコンサート(後援)
- 7月 「三百字の遺言」刊行
- 7月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 8月 チューリップテレビ・北日本放送にて啓発活動
- 10月 臓器の移植に関する法律施行、角膜及び腎臓に関する法律廃止。本人が書面にて提供意思表示をしていれば臓死提供が可能に

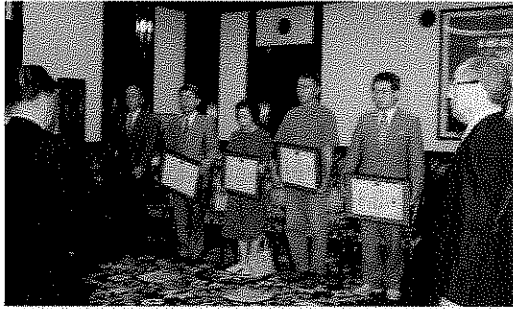
- 厚生省より角膜移植におけるドナーの適応基準についての通知があり、ドナーからの採血を行うこととなる
- 10月 富山テレビにて理事長が啓発活動
- 11月 KNBラジオ「ビタミンワイド」にて啓発活動
- 11月 強角膜片作成とドナーからの採血講習会実施
- 11月 富山法人会チャリティーコンサート

1998(平成10年)～2002(平成14年)

角膜移植は緊急手術から予定手術へ

厚生省から角膜移植におけるドナー適応基準についての通知により、強角膜片の保存、ドナー採血の実施を行うようになりました。これによって、献眼日より1週間以内に移植を行うこととなり、従来、

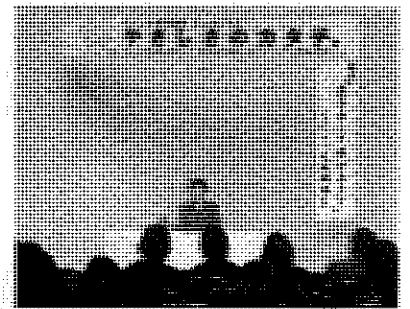
緊急手術であった角膜移植は、予定手術として行えるようになりました。これは、摘出医、移植医、移植を受ける患者様にとっても大きなメリットでした。



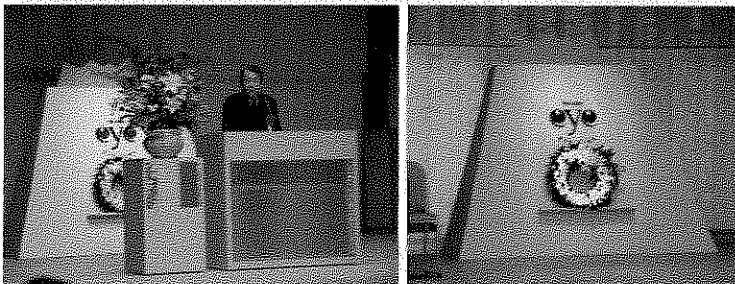
平成10年7月29日／献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式



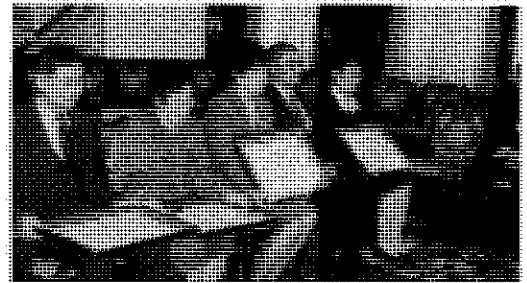
平成10年10月／4バンク合同啓発運動(於：中央通り)



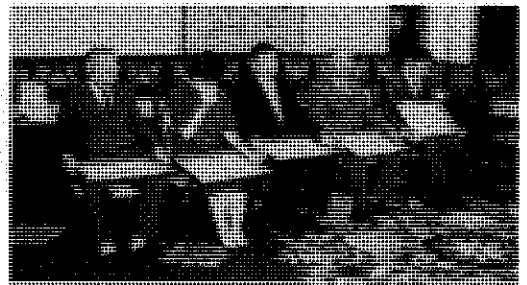
平成10年12月／3バンク合同啓発運動「やさしさをカタチ。」(国体調)



平成11年11月7日／第2回献眼運動富山県民大会開催



平成11年3月11日／献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式



平成11年8月26日／献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式

〔1998年／平成10年〕

- 4月 日本財団補助金授与式(角膜移植用強角膜片撮影装置機器等の整備)
- 4月 富山県善意銀行合同法要に出席
- 6月 広報誌富山県アイバンクだより第5号発行
- 7月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 11月 KNBラジオ「ビタミンワイド」にて啓発活動

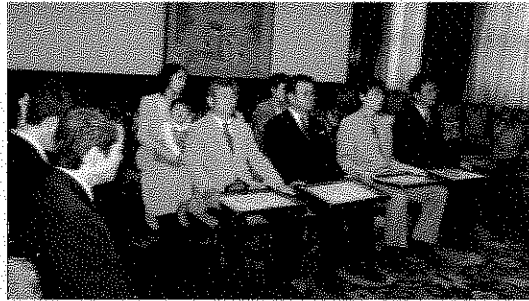
〔1999年／平成11年〕

- 2月 国内初の脳死下臓器提供・角膜提供
- 3月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式
- 3月 北日本放送「もっともっと富山アイバンクはう」番組放映
- 4月 富山県善意銀行献眼献体合同法要に出席
- 6月 「Eye Bank Journal」に大黒常務理事が寄稿
- 7月 登録カードを旧免許証サイズからカード型に変更することが決定
- 8月 献眼者へ厚生大臣感謝状伝達式

- 8月 広報誌富山県アイバンクだより第6号発行
- 10月 アイバンクチャリティー長岡すみ子民謡ショー(富山LC主催)
- 10月 日本眼科紀要第50巻第10号にて論文掲載
- 11月 第2回献眼運動富山県民大会開催
- 12月 「Eye Bank Journal」に寄稿
- 12月 同地域版に富山県アイバンクの紹介が掲載。井村理事長・大黒常務理事が寄稿

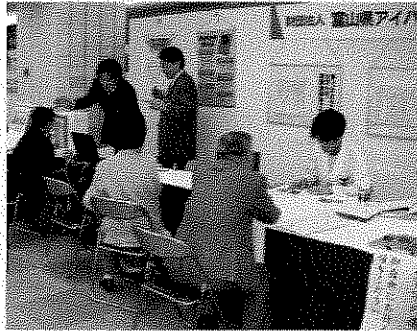


平成12年10月24日／ライオンスク
ラブのLCIF交付金による医療機器贈
呈式（ご献眼から移植までに係る機器
整備事業）。富山大学へ寄贈

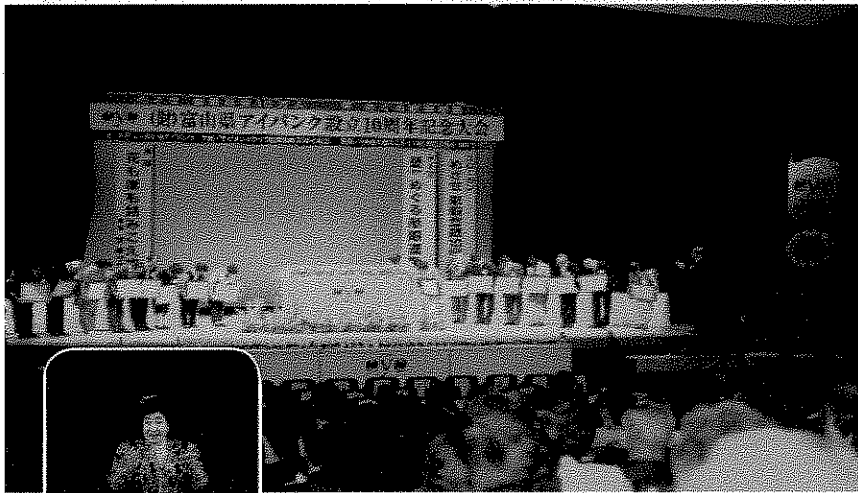


平成12年5月15日／献眼者へ厚生大臣感謝状伝
達式

平成13年／いきいきとや
ま健康と長寿の祭典にて
啓発活動



平成13年4月26日／献眼者へ厚生労
働大臣感謝状伝達式



平成14年4月28日／設立10周年記念大会開催



同（会場での募金活動）

〔2000年／平成12年〕

- 1月 「眼球のあっせんに関する技術指
針について」（厚生省保健医療局
通知）により、技術的行為につい
て一定の基準が設けられる
- 2月 第24回角膜カンファランスにお
いて学術展示発表
- 4月 フェルヴェール開店1周年記念
「ベギー葉山リサイクル」後援
- 5月 ライオンスクラブのLCIF交付金
による医療機器贈呈式、富山大
学に機器設置
- 12月 アイバンクチャリティー加賀山
昭・歌千代民謡の夕べ（富山南
LC主催）

- 12月 副理事長に高田眞氏が就任、常
務理事に岡本武勇氏が就任
- 12月 第2回アイバンクワークショップ
セミナーにて講演
- 12月 広報誌富山県アイバンクだより
第7号発行

〔2001年／平成13年〕

- 2月 公的病院を対象にアイバンクに
関するアンケート調査を実施
- 4月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝
達式
- 5月 富山眼科集談会において発表
- 8月 広報誌富山県アイバンクだより
第8号発行

〔2002年／平成14年〕

- 1月 強膜あっせん美の認可を受ける
- 2月 第26回角膜カンファランスにお
いて学術展示発表
- 3月 ラジオたかおかにて啓発活動
- 4月 設立10周年記念大会開催
- 12月 「Eye Bank Journal」に高田副
理事長の紹介が掲載
- 12月 理事長に高田眞氏就任、副理事
長に本村哲明氏と大黒幸雄氏就
任、常務理事に野村謙吉氏就任

2003(平成15年)～2007(平成19年)

献眼登録活動に加えて医療従事者への啓発活動

県内の公的病院長より推薦を頂いた看護師さんや医療従事者へ院内コーディネーターの委嘱状が交付されるようになりました。これによって病院への啓

発活動がスムーズに行えるようになり、また、提供したい患者様の意思を尊重できる体制が整備されつつあります。



平成15年5月1日/献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式



平成17年5月19日/献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式



平成19年5月24日/献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式



平成19年/LC補選委員(富山5・3D・6LC)

(2003年/平成15年)

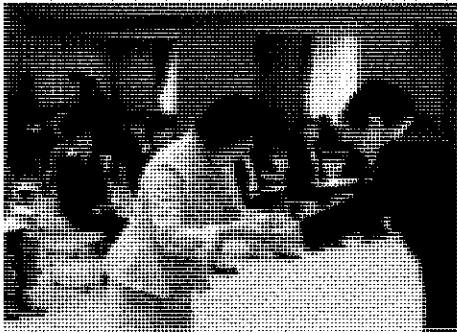
- 2月 アイバンク協会認定スタッフ第1回認定試験に入江Coが合格
- 3月 富山県アイバンク情報発行開始
- 5月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 5月 広報誌富山県アイバンクだより第9号発行

(2004年/平成16年)

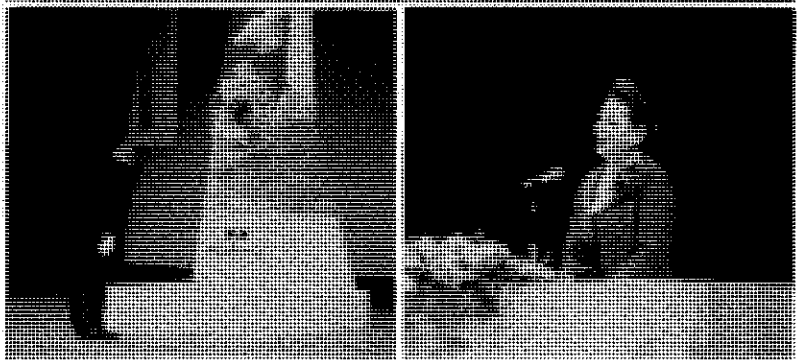
- 2月 アイバンクサポーター講習会開催
- 2月 県より業務及び財産の状況に関する検査の実施
- 4月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 8月 広報誌富山県アイバンクだより第10号発行
- 10月 アイバンクチャリティーなごさ会民謡の祭典(富山南LC主催)
- 12月 登録者10,000人に対し登録継続意思確認調査を実施

(2005年/平成17年)

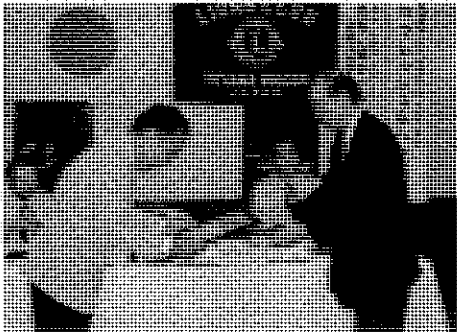
- 2月 アイバンクチーフサポーター講習会出席
- 3月 『Eye Bank Journal』に大黒副理事長が寄稿
- 4月 個人情報の保護に関する法律の施行(平成15年)により、登録パンフレットに目隠しシールが付属
- 5月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 8月 広報誌富山県アイバンクだより第11号発行
- 9月 『Eye Bank Journal』創立40周年記念号』に大黒副理事長・入江Coが寄稿
- 9月 第5回アイバンクチーフサポーター講習会参加
- 10月 第9回JATCO研究会にて発表



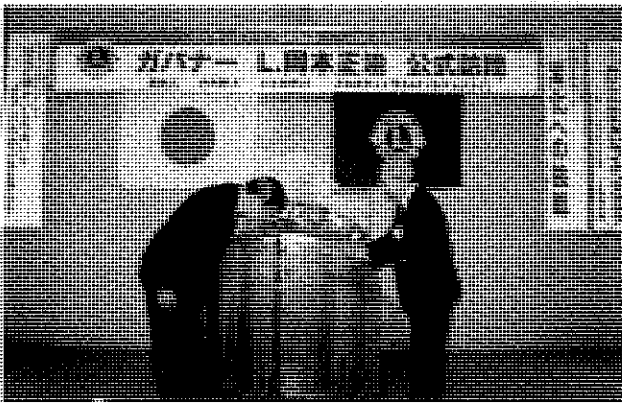
平成19年4月26日／院内コーディネーター委嘱状交付式



平成19年8月16日／設立15周年記念大会開催



平成19年8月22日／寄付者感謝状伝達(富山東LC)



平成19年10月10日／ガバナー公式誌贈呈(2932)



平成19年10月11日／いさいさとやま健康と長寿の祭典にて啓発活動

(2006年／平成18年)

- 3月 第6回アイバンクチーフサポーター講習会出席
- 4月 院内コーディネーター委嘱状交付式
- 5月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 6月 第19回日本脳死・脳蘇生学会にて一般口頭発表
- 9月 広報誌富山県アイバンクだより第12号発行
- 11月 JAICO研究会にて発表
- 12月 第7回アイバンクチーフサポーター講習会に野村常務理事が出席

(2007年／平成19年)

- 遠心分離機設置
- 4月 院内コーディネーター委嘱状交付式
- 4月 赤い羽根共同募金会助成金交付式
- 5月 FMとやまラジオにて啓発活動(6月11日から15日まで放送)
- 6月 広報誌富山県アイバンクだより第13号発行
- 6月 KNBラジオにて啓発活動
- 6月 ラジオたかおかにて啓発活動
- 6月 設立15周年記念大会開催

- 10月 高田眞理事長が北日本新聞文化功労賞受賞
- 10月 いさいさとやま健康と長寿の祭典にて啓発活動
- 11月 第57回富山眼科集談会にて発表

2008(平成20年)～2012(平成24年)

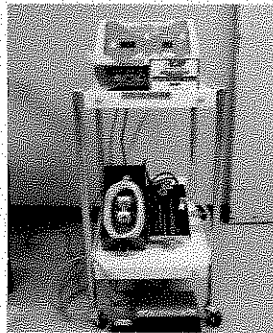
法改正により親族優先提供と角膜のパーツ移植開始

法律の改正により、親族優先提供が可能となりました。また、角膜移植もパーツ移植の時代を迎え、平成20年には、ライオンズクラブLCIFより助成を

頂き「角膜内皮移植機器」を富山大学附属病院に整備し、縫わない角膜移植を実施するようになりました。



平成20年2月2日/第32回角膜カンファレンスにおいて学術展示発表、入江Coが真鍋賞を受賞



平成20年12月21日/LCIF一般援助金交付医療機器(DSAEK)



平成20年6月3日/献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式



平成22年10月18日/献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式



平成20年12月21日/ライオンズクラブLCIF一般援助金交付医療機器(DSAEK)贈呈式(富山大学眼科へ)



平成21年12月25日/メガネハウス様寄付金感謝状伝達

(2008年/平成20年)

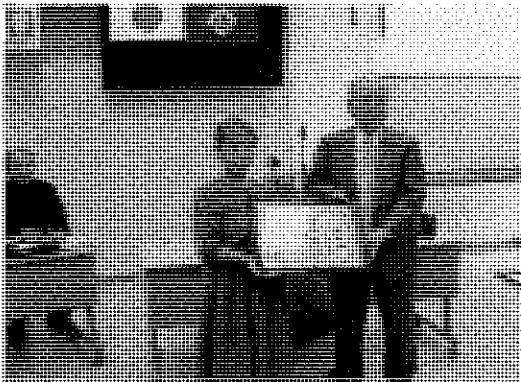
- 2月 第32回角膜カンファレンスにおいて学術展示発表、入江Coが真鍋賞を受賞
- 3月 アイバンクチャリティー加賀山昭の会(富山南LC主催)
- 4月 院内コーディネーター委嘱状交付式
- 6月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 8月 第7回日本組織移植学会学術集会において一般演題発表
- 9月 広報誌富山県アイバンクだより第14号発行
- 12月 LCIF一般援助金交付医療機器(DSAEK)贈呈式、富山大学眼科へ機器設置

(2009年/平成21年)

- 2月 第33回角膜カンファレンスにおいて学術展示発表
- 5月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 8月 公益財団法人への移行申請書の提出
- 8月 県より業務及び財産の状況に関する検査の実施
- 10月 県より公益財団法人への移行の認定を受ける
- 11月 公益財団法人への移行登記申請
- 11月 広報誌富山県アイバンクだより第15号発行

(2010年/平成22年)

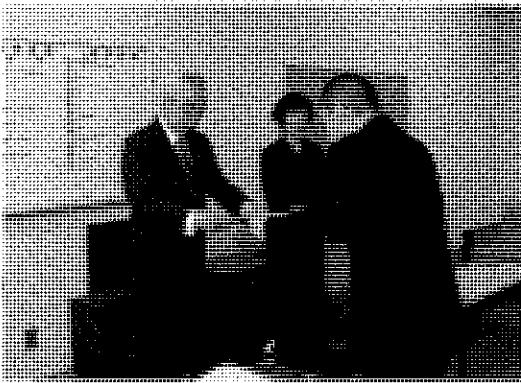
- 1月 臓器の移植に関する法律改正(一部施行)により、親族優先提供が可能となる
- 3月 副理事長に宮岸武氏就任、常務理事に森弘氏就任
- 4月 院内コーディネーター委嘱状交付式
- 6月 平成22年度寄付金付き年賀はがき助成金を、献眼登録推進及び登録普及啓発用チラシ等作成のためのカラー複合機導入事業として受領



平成22年7月/LC研究会にて寄付者感謝状伝達
(長田博/入会)



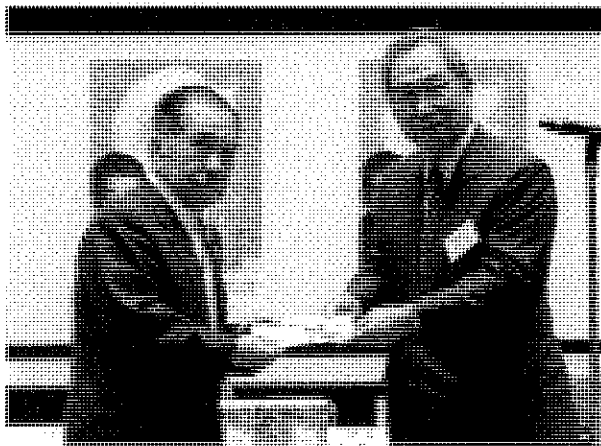
平成22年2月2日/LC研究会にて講演(富山LC)



平成24年4月10日/平成24年度寄付金付年
賀はがき見直し決定通知書交付式



平成23年10月18日/献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式



平成24年7月27日/井村元理事長、今泉眞堂賞

今泉賞：日本で初めて角膜移植を行った今泉亀徹氏の多年にわたる角膜移植医療、およびアイバンク活動への貢献を記念し、平成20年に制定。わが国における角膜移植、およびその関連分野の医療の研究または実践、アイバンク活動の推進に著しい貢献をした個人または組織へ送られる賞。

- 7月 臓器の移植に関する法律改正により、本人が臓器を提供する意思がないことを表明していなければ、遺族が臓器提供に書面にて承諾した場合、提供が可能に。これにより、15歳未満の方からの脳死下での臓器提供も可能に
- 10月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 12月 広報誌富山県アイバンクだより第16号発行

〔2011年/平成23年〕

- 1月 アイバンク各発用立て看板「アーチ君」作成
- 7月 理事長に大黒幸雄氏就任、副理事長に伊勢豊彦氏就任
- 8月 平成23年度献眼登録フォローアップ事業を実施
- 10月 岡本武勇理事が臓器移植対策推進功労者厚生労働大臣感謝状を授与
- 10月 献眼者へ厚生労働大臣感謝状伝達式
- 11月 広報誌富山県アイバンクだより第17号発行

〔2012年/平成24年〕

- 2月 角膜カンファレンス2012において、ポスター展示発表
- 4月 平成24年度寄付金付き年賀はがき助成金決定通知書交付式
- 5月 赤い羽根共同募金会助成金決定書交付式
- 6月 富山県において日本初6歳未満の脳死下臓器提供
- 7月 井村元理事長、今泉賞受賞
- 8月 富山福祉短大看護学科においてエンゼルメイク講義
- 8月 広報誌富山県アイバンクだより第18号発行

座談会 奉仕の心つないだ20年

と き：平成24年7月19日（木）

ところ：高岡市福岡町 フェルヴェール本店

出席者：井村東司三	富山県アイバンク元理事長（第2代）
高田 眞	同 前理事長（第3代）
大黒 幸雄	同 現理事長（第4代）
司 会：野村 謹吉	同 常務理事



左より野村謹吉常務理事、高田眞前代理理事、井村東司三元代理理事、大黒幸雄現理事長

司 会 きょうは新旧の理事長さん方にお集まりいただきました。この座談会を通じて一般のみなさまに少しでもアイバンクを理解していただければと思います。

富山県アイバンクは平成3年（1991）に設立されました。初代理事長は家城さん（故人）で3年間務められ、井村さんは平成6年（1994）2月に2代目の理事長に就任され、8年間務められました。現在は97歳になられます。3代目理事長の高田さんは平成14年（2002）12月から9年間務められ、現在87歳になられます。そして、4代目となる現理事長の大黒さんは平成23年（2011）7月に就任され、83歳でいらっしゃいます。ということで、正に高齢化社会の先陣をきって社会貢献に尽くしていただいております。

井 村 アイバンクの設立にはライオンズクラブが大きくかかわっています。私もライオンズクラブに

在籍していますが、昭和51年（1976）には、ライオンズクラブの1リジョン（県東部）と2リジョン（県西部）合同で、盲導犬を贈る活動が行われ現在も続いています。また昭和57年（1982）、ライオンズクラブの会合が名古屋でありました。ガバナーとして参加したわたしは、献眼運動において富山県が大変遅れていることを知りました。その後、高岡で初めて献眼運動の説明をしましたが、アイバンクの開設までには至りませんでした。

その後の昭和61年（1986）、当時の村本ガバナーとわたしが中心になり、同じく1リジョンと2リジョン合同でアイバンク設立準備委員会ができました。そして平成3年（1991）に家城ガバナーが設立を決断し、大黒さん、高岸さんの働きにより富山県アイバンクが発足しました。平成4年（1992）に厚生省（現 厚生労働省）から正式に眼球提供幹旋許可を受け、活動が始まりました。

まずはライオンズクラブの全員、そして全県下に理解と啓発を進めるためパンフレットや広報の配布などに取り組みました。献眼登録をお願いするとともに、募金箱を広く設置させていただきました。献眼者の御葬儀があれば参列し、弔辞を奉読して感謝の意を表しました。

司会 岩手医科大学の今泉教授が角膜移植を行ったのがきっかけとなり、昭和33年（1958）に「角膜移植に関する法律」が成立しました。昭和38年（1963）には日本初のアイバンクが岩手医科大学、慶応大学、順天堂大学、大阪でもスタートしました。富山県においては昭和38年10月10日“眼の愛護デー”を記念して富山県善意銀行内にはじめて眼球預託口座が設けられました。38豪雪でわたしたちには忘れられない年ですが、そのときに日本のアイバンクの歴史が始まったわけです。

司会 当時集めた基本財産の5,000万円が今もずっとそのまま生きていますが、県からの1,000万円、ライオンズクラブの奉仕銀行からの2,000万円のほか、その他の準備金2,000万円は、どこから捻出したのですか。

大黒 ガバナーの声掛けで集めたんです。

司会 すごい馬力があったんですね。当時は景気も右肩上がりだったからでしょうか。今、それだけのお金を集めるとなるとなかなか。

大黒 当時の家城さんは頑張られました。県も1,000万円出していただいた。当時の渡辺県議に相談し、中沖知事にお話しされたら、その場で決まった。「待っとられ、わかった」と。あれはありがたかった。

感謝状に気持ちこめ

高田 献眼された方の葬儀で読み上げるライオンズクラブガバナーからの感謝状と弔辞は、参列者にも感動を与えています。

大黒 献眼は御本人の意思と同じくらいに御家族の理解がなければ実現しません。わたしは献眼者の葬儀に参列して弔辞を読むときには、終わる前に必ず御家族のほうを向いて「本当にありがとうございました」とあいさつするようにしています。「御本人の意思もさることながら、ご遺族の皆様がさまざまな問題をクリアして献眼を決心されたおかげで、

誰かの目が見えるようになります」との感謝の気持ちを込めています。弔辞の中ではありますが、御家族にこそ参列者の前でお礼を言わなきゃいかんと思います。それが献眼について多くの人に理解していただくことにもつながると考えています。

高田 葬儀への参列と弔辞の読み上げは今でこそ役員たちで都合をつけながら対応していますが、以前は井村さんがすべて一人でやっておられた。大変だったと思います。我々より10歳年上で頑張ってこられたことに頭が下がります。

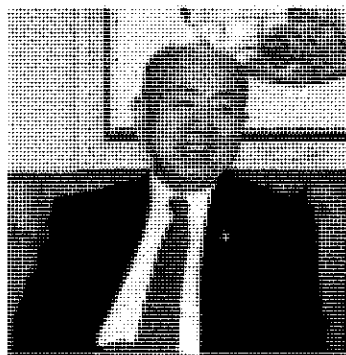


井村東司 第2代理事長

井村 毎回、遺族の話もうかがって序文からすべて自分で原稿を書き、それを消書して持っていきました。文面は同じで名前だけを差し替えるような弔辞を贈る団体もありますが、あれを見ていると嫌になります。あんなの、わたしならもらわんほうがいい。下手であっても、自分がそのとき思ったことを伝えたいと思って、頑固に最後まで通しました。

高田 自分の仕事もあった中で、なかなか普通はできないことを井村さんはやっておられたわけです。

司会 高田さんが理事長のときに、コーディネーター制度が非常に活発になりました。平成18年（2006）に公的病院長より推薦を受けた看護師さんや医療従事者が県知事の委嘱状を受けて、院内コー



高田眞 第3代理事長

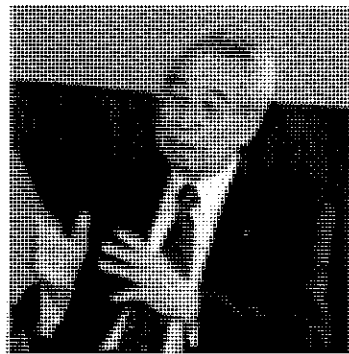
ディネーター制度が始まりました。最近、献眼が比較的多くなってきたのもコーディネーター制度が力を発揮しているからだと思います。

高田 ライオンズクラブのメンバーで、アイバンクに登録している人であっても、亡くなったばかりのときに献眼のことを御家族に伝えるのは難しいことです。こちらから言い出せなかったことも過去には結構あります。以前に東海北陸ブロックの連絡協議会で福井へ行ったときに、看護師さん、医師から患者の家族に献眼の意思を確認する方法を実施していると聞いて、それはいいことだと思いました。昔と違い、自宅ではなく、病院などの施設でお亡くなりになる方が全体の80%を占めると言われています。一番患者さんに接し信頼を得ていた、医師、看護師さんから献眼の意思を確認していただくことによって献眼数が増加すると思います。

大黒 コーディネーターの入江さんはよく頑張ってくれている。あちこちへ足を運び、いろいろ献眼のことなどをしてくれています。ただ、わたしたちはいわゆるPR活動まで入江さんに任せてしまえばいいんじゃないかと思います。アイバンクのやっている仕事の具体的な部分は入江さんの話に説得力がある。一方でアイバンクの精神や理念といったことは我々役員もしっかり伝えていかなければなりません。県内各地のライオンズクラブの例会などへ足を運び、ライオンズクラブの深く関わってきたアイバンク活動とは一体何であるかということ、そしてこういう協力をお願いしたいという話をしていきたいと思っています。

司会 「臓器提供意思表示カード」ができてからは、「眼球」のところに丸をつけることで献眼の意思を示すことができます。昔のようにアイバンクにだけ登録するという人がだんだん減ってきているような気がします。

大黒 そうですね。平成9年(1997)に意思表示カードが出回るようになってから献眼登録者は減っています。他県では臓器バンクと一緒にあって献眼登録制度をなくしたところもありますが、私は献眼登録は必要だと思います。アイバンクは角膜移植と献眼の必要性を広く啓発するためにPRをし、献眼登録を呼び掛ける必要があります。その一方で実際に角膜移植が必要な方はまだまだたくさんいらっしゃいます。医療機関への啓発も必要ですが、献眼について広く知ってもらうための運動が絶対に必要だと思う。各地にあるアイバンクが、地道な運動を続けていくべきだと考えています。まだまだ我々のPR活動が足りないんじゃないかという気がしています。



大黒中雄 眼移植推進(第4代)

今後も重要な啓蒙活動

大黒 角膜移植を待つ患者の数は平成23年度末で全国において2,354人。一番多いときで5,000人ぐらいおられました。全国的にも待機患者は徐々に減ってきているのですが、これはアメリカなどからの輸入眼を使った手術が増えているのが理由と考えられます。待機患者数は都道府県により差がありますが、患者が手術を受けやすい病院や地域に移動することもありますし、移植する角膜を県外にあっせんすることもあると思います。富山県では、輸入眼ではなく、県内でご提供頂いた角膜を使用し移植手術が行われています。



平成24年7月6日付 富山新聞

司会 今年6月、6歳未満の脳死の男の子からの臓器提供が日本で初めて、しかも富山県でありました。角膜移植が終了していないのに、「臓器移植すべて終了」という報道がされていました。事務局が「角膜移植報告」のプレスリリースをしたことによって、報道されることになりましたが、ほかの臓器の提供に比べて献眼が軽く扱われているような気がして残念でした。

大黒 やっぱり献眼運動についてのPRはもっとしなければいけないと思いますね。富山なら23年度で献眼は19件なので、その度に新聞記事になってもよいくらい。過去に新聞社にお願いしたことがあるが、記事にしにくい背景があるんです。ニュースになるような話ならよいのだけど、すべてを掲載するとなると個人情報やら何やら難しい問題もあるようです。

司会 今の話の続きですけど、その後、富山新聞には「感謝でいっぱい。脳死男児から角膜移植」という記事が大きく掲載されました。移植を受けた方の感謝の文章が寄せられています。これは非常に良い記事でした。

LCが支えてきた献眼

井村 富山県アイバンクは平成21年（2009）に公益財団法人となりました。ライオンズクラブの会員のみなさんにもこのことをよく理解していただく必要があります。気軽に寄付をしていただける環境が整ったわけですから。



司会の野村謹吉 常務理事

司会 毎月、会報の「アイバンク情報」でいろんなことを書いて出していますけど、そこでも必要な情報を発信していかなければいけません。

大黒 今は文字では読まないという時代でしょう。最近是一般の本も売れなくなってきて活字離れが進んでいる。こういうものを書いてあるから分かっているだろうと思っても、伝わっていないというのが最近の風潮です。訴え方の工夫もしていかなければならないと思います。

司会 あらためてライオンズクラブのメンバーと県民のみなさんに献眼というものの尊さをもう一度説明しなければいけません。

大黒 現在、ライオンズクラブが最も積極的に協力しているのは献血活動でしょう。ライオンズクラブにもいろんな事業がある。アイバンクが、ライオンズクラブの最大のアクティビティー（活動）であることがぼけてしまっていないだろうか。

ライオンズクラブには現在、四献運動の委員会があります。考え方として、献眼、臓器提供、献血、骨髄提供の四つの活動に平等に取り組もうとしています。これはどうかと思います。ヘレン・ケラーが言った“盲人のための騎士”として、ライオンズクラブ本来の人道的なアクティビティーは献眼です。献血などは日本赤十字社の事業として運営されていますが、献眼というのはあくまでもライオンズクラブを中心とする民間の力と資金で支えられていることは強調しておきたいと思います。

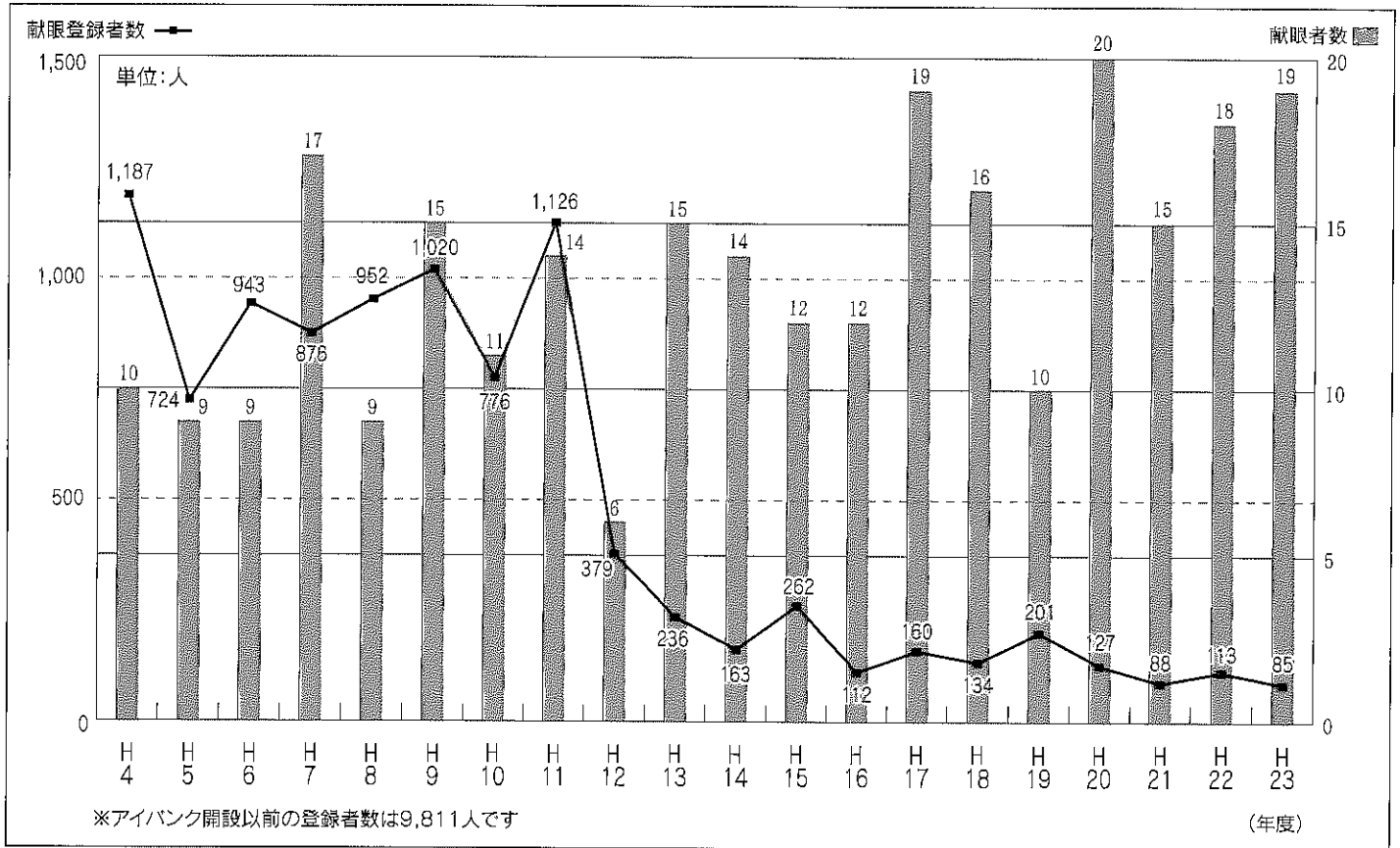
井村 献眼運動はライオンズクラブにとって代表的なアクティビティーだという認識をみなさんに持ってもらうにはどうすればよいですかね。

司会 ライオンズクラブにも問題があり、奉仕活動のマンパワーを報告するようにしているものだから、カウントしやすい献血活動のほうが手掛けやすいという事情があるようです。

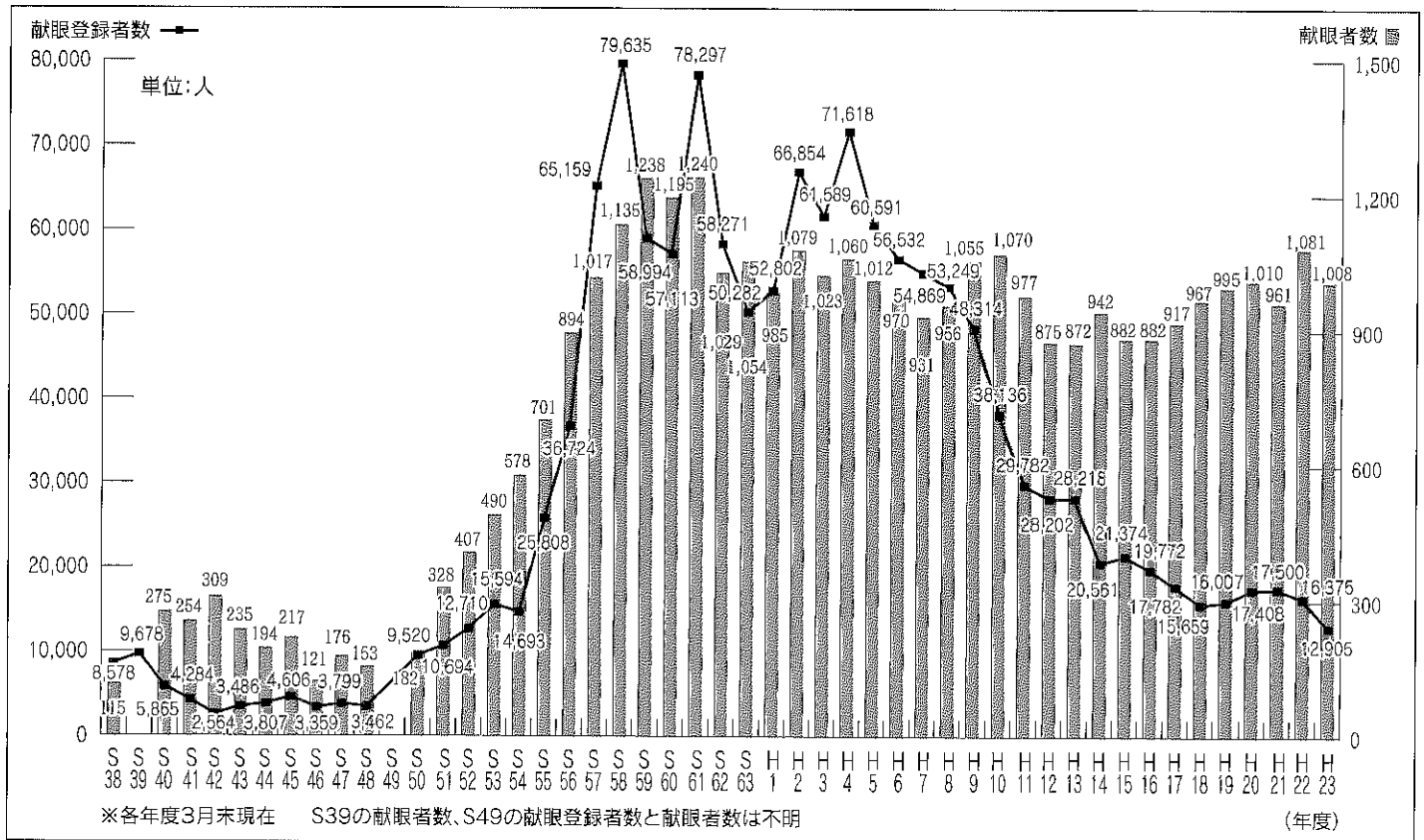
大黒 協力のあったライオンズクラブにアイバンクから感謝状を贈るとか、各クラブの献眼運動に対する意欲を引き出すようなことも突破口として考えていかなければならないでしょう。これからどういう仕事をしていかなければならないかといえば、ライオンズクラブのメンバー、そして地域の人たちに働きかけていく作業をしなきゃいけないというのがわたしの一番の思い。わたしたち自らが行動しなければいけないと考えています。

司会 本日は貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

富山県の年度別・献眼登録者及び献眼者数の推移



全国の年度別・献眼登録者及び献眼者数の推移



全国アイバンク(眼球銀行)一覧表

(平成24年4月1日現在)

アイバンク名	〒	所在地	TEL
(公財)北海道アイバンク	060-8543	札幌市中央区南一条西16 札幌医科大学附属病院眼科内	011-614-1189
NPO旭川医大アイバンク	078-8510	旭川市緑が丘東2条1-1-1 旭川医科大学眼科	0166-68-2543
(公財)弘前大学アイバンク	036-8563	弘前市本町53 弘前大学医学部附属病院内	0172-39-5095
岩手医大眼球銀行	020-8505	盛岡市内丸19-1 岩手医科大学附属病院事務部医務課内	019-651-5111
(公財)東北大学アイバンク	980-8574	仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学医学部眼科学教室内	022-728-3677
(公財)あきた移植医療協会	010-0874	秋田市千秋久保田町6-6 秋田県総合保健センター5F	018-832-9555
(公財)山形県アイバンク	990-9585	山形市飯田西2-2-2 山形大学医学部附属病院内	023-628-5374
(公財)福島県臓器移植推進財団	960-8670	福島市杉妻町2-16 福島県保健福祉部地域医療課内	024-521-9027
(公財)茨城県アイバンク	310-0845	水戸市吉沢町223-1 小沢眼科内科病院 分室2F	029-306-9390
(公財)栃木県アイバンク	320-0063	宇都宮市陽西町1-37 護国会館内	028-624-1010
(公財)群馬県アイバンク	371-0026	前橋市大手町3-9-16	027-237-5008
(公財)埼玉県腎・アイバンク協会	330-0062	さいたま市浦和区仲町3-5-1 県民健康センター内3F	048-832-3300
(公財)千葉県アイバンク協会	260-8670	千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部眼科学教室内	043-222-6803
角膜センター・アイバンク	272-0824	市川市菅野5-11-13 東京歯科大学市川総合病院内	047-324-1010
順天堂アイバンク	113-8431	文京区本郷3-1-3 順天堂大学医学部内	03-3813-3111
慶應義塾大学病院眼球銀行	160-8582	新宿区信濃町35 慶應義塾大学病院内	03-3353-1211
(社福)読売光と愛の事業団眼球銀行	104-8243	中央区銀座6-17-1 読売新聞東京本社内	03-6226-7633
杏林アイバンク	181-8611	三鷹市新川6-20-2 杏林大学医学部附属病院内	0422-47-5511
(公財)かながわ健康財団 腎・アイバンク推進本部	231-0037	横浜市中区富士見町3-1 神奈川県総合医療会館5階	045-242-3961
(公財)山梨県アイバンク	409-3898	山梨県中央市下河東1110 山梨大学医学部内	055-273-6776
(公財)長野県アイバンク・臓器移植推進協会	380-0928	長野市若里7-1-5 長野県医師会館内	026-226-1516
(公財)新潟県臓器移植推進財団	950-8570	新潟市中央区新光町4-1 新潟県福祉保健部健康対策課内	025-283-4880
(公財)富山県アイバンク	930-0194	富山市杉谷2630 富山大学医学部眼科内	076-434-5710
(公財)石川県アイバンク	920-8641	金沢市宝町13-1 金沢大学医学部附属病院眼科教室内	076-265-2405
(公財)福井県アイバンク	918-8503	福井市和田中町舟橋7-1 福井県済生会病院内	0776-23-1315
(公財)岐阜県ジーン・アイバンク協会	500-8570	岐阜市鮫田南2-1-1 岐阜県庁保健医療課内	058-276-1103
(公財)静岡県アイバンク	431-3192	浜松市東区半田山1-20-1 浜松医科大学医学部附属病院内	053-433-3331
(公財)愛知県アイバンク協会	460-0008	名古屋市中区栄4-15-23 ライオンズマンション久屋公園2階	052-263-0832
(公財)三重県角膜・腎臓バンク協会	514-8570	津市光明町13 三重県健康福祉部医療対策局医療企画課内	059-224-2333
(公財)滋賀県健康づくり財団 腎・アイバンクセンター	520-0801	大津市におの浜4-4-5	077-525-2733
京都府立医大アイバンク	602-8566	京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465	075-251-5235
(公財)体質研究会アイバンク	606-8225	京都市左京区田中門前町103-5 パストゥールビル5F	075-702-0824
(公財)大阪アイバンク	565-0871	吹田市山田丘2-2 大阪大学医学部銀杏会館内	06-6875-0115
(公財)奈良県アイバンク	634-8522	橿原市四条町840 奈良県立医科大学附属病院眼科内	0744-22-3051
(公財)和歌山県角膜・腎臓移植推進協会	640-8268	和歌山市広道20番地 第3田中ビル603	073-424-7130
(公財)兵庫アイバンク	650-0017	神戸市中央区楠町7-5-2 神戸大学医学部附属病院内	078-382-6046
(公財)鳥取県臓器バンク・鳥取眼球銀行	683-8504	米子市西町36-1 鳥取大学医学部内	0859-34-4809
(公財)ヘルスサイエンスセンター島根(しまねまごころバンク)	693-0021	出雲市塩冶町223-7	0853-22-2556
(公財)岡山県アイバンク	700-0923	岡山市北区大元駅前3番57号	086-223-6622
(公財)ひろしまドナーバンク	734-8551	広島市南区霞1-2-3 広仁会館内	082-256-3523
(公財)やまぐち移植医療推進財団	753-8790	山口市滝町1-1 山口県健康福祉部地域医療推進室課内	083-932-0743
(公財)徳島アイバンク	770-8503	徳島市蔵本町3-18-15 徳島大学医学部眼科学分野内	088-633-7163
(公財)香川アイバンク	760-0017	高松市番町1-10-35 香川県社会福祉総合センター内	087-861-4618
(公財)愛媛アイバンク	790-0003	松山市三番町4丁目5番地3 愛媛県医師会館内	089-913-7786
NPO高知アイバンク	780-0870	高知市本町3-6-10	088-823-2035
(公財)福岡県医師会眼球銀行	812-8551	福岡市博多区博多駅南2-9-30 福岡県医師会内	092-431-4564
久留米大学アイバンク	830-0011	久留米市旭町67 久留米大学医学部眼科学教室内	0942-35-3311
(公財)佐賀県アイバンク協会	849-8501	佐賀市鍋島5-1-1 佐賀大学医学部眼科内	0952-31-6511
(公財)長崎アイバンク	852-8501	長崎市坂本1-7-1 長崎大学病院眼科学教室内	095-819-7517
(公財)熊本県角膜・腎臓バンク協会	861-8520	熊本市長嶺南2-1-1 日本赤十字社熊本県支部内	096-384-2111
(公財)大分県アイバンク協会	879-5593	由布市挾間町医大ヶ丘1-1 大分大学医学部眼科学講座内	097-549-1411
(公財)宮崎県アイバンク協会	880-0023	宮崎市和知川原1-101 宮崎県医師会館内	0985-22-5180
(公財)鹿児島県角膜・腎臓バンク協会	890-0053	鹿児島市中央町8-1 鹿児島県医師会館内3F	099-210-5546
(公財)沖縄県アイバンク協会	900-0034	那覇市東町26-1 (社福)那覇市医師会内	098-867-5794
(公財)日本アイバンク協会	101-0054	東京都千代田区神田錦町2-2 武内ビル4F	03-3293-6616

公益財団法人 富山県アイバンク設立20周年記念大会組織図

名誉大会顧問
石井 隆一 富山県知事

大会顧問
高田 順一 ライオンズクラブ国際協会 国際理事
木村 正明 ライオンズクラブ国際協会 334-D地区ガバナー
石田 俊郎 富山県眼科医会会長

名誉大会長
井村 東司三 富山県アイバンク元理事長
高田 眞 富山県アイバンク前理事長

大会長
大黒 幸雄 富山県アイバンク理事長

副大会長
小林 秀幸 富山県厚生部長、富山県アイバンク理事
伊勢 豊彦 富山県アイバンク副理事長
宮岸 武 富山県アイバンク副理事長

大会実行委員長
野村 謹吉 富山県アイバンク常務理事

大会副実行委員長
森 弘 富山県アイバンク常務理事

大会事務局長
本村 哲明 富山県アイバンク前副理事長

大会副事務局長
岡本 武勇 富山県アイバンク前常務理事

総務委員会
委員長 稲垣 實
○寺崎 達二 ○高瀬 清春 ○門前 昌志 ○佐賀野昭一郎 藤澤 實 村家 博 渡邊 清隆 松下 栄信 大坪 敏雄 高田 重信 瀬川 憲一 辻井 益雄

大会委員会
委員長 戸田 治
○廣田 勉 ○三井 適夫 ○慶野 耕一 ○魚谷 和彦 石坂 博信 吉田 隆 長谷川修博 山口 清 浦田 啓一 寺島 太郎 北岡 勝

大会記念事業委員会
委員長 花島 榮一
○牧 亨 ○尾間 央 ○筏井 晴夫 ○佐々木照之 磯野 敏雄 吉川 裕 橋本 徳倫 菅野 寛二 中田 眞法 窪田 一誠 前田 新作

式典・会場委員会
委員長 河合 宏和
○府録 弘之 ○杉村 憲一 ○石村 正男 中尾 順一 港 勉 中野 道嘉 池原 憲文 高縁 勉 柳澤 伸一 城 外喜男 若森 征雄 板野 吉秀

献眼及び献眼登録開発事業委員会
委員長 戸田 昭一
○宇波真一郎 ○山田 真功 ○流田 範男 ○野村 賢政 林 巖 小濱 裕夫 一川 順彦 森越 隆士 山下 光造 永森 忠志

接待委員会
委員長 金井 澄子
○清水 英子 ○藤巻 篤子 ○片山 忠 藤井 明美 高松 和宏 片山 孝志 石黒 稔

教護委員会
委員長 笠島 學
○林 篤志 ○熊野 清 平木 光昭 澁谷 明男 野田 孫就

○印は、副委員長

賛助会員ご加入および寄附金・募金のお願い

アイバンクは、角膜疾患によって目の不自由な方のために献眼者の募集と移植希望者の募集等の事業を行っています。ひとりでも多くの方に光のプレゼントができるよう努力していますが、そのためには多額の運営資金が必要となり、この事業費は基本財産の運用収入のほか賛助会員費、寄附金収入を主なる財源として充てております。皆様の格別のご理解ご協力をお願い申し上げます。

寄 附 金 費 率		
団体・法人会員	年会費	1口 10,000円
個人会員	年会費	1口 3,000円

※賛助会員にご加入いただける方は事務局までご連絡ください。

TEL：076-434-5710 E-mail：info@toyama-eyebank.com

口座引落としについてお知らせいたします。

※寄附金・募金については振込用紙にてお振込みください。

この寄附金は、法人・個人を問わず法規に基づき、所定の減免手続きにより、寄附金控除の対象となります。さらに個人の場合は、法規に基づき、所定の減免手続きにより、寄附金税額控除の対象となります。詳しくは、事務所までお問い合わせください。

公益財団法人 富山県アイバンク事務局

〒930-0194 富山市杉谷2630 富山大学医学部眼科内

TEL(076)434-5710 FAX(076)436-0146

E-mail:info@toyama-eyebank.com

編集後記

「富山県アイバンク」設立以来、多くの県民の皆様の温かいご理解とご協力のもと20周年を迎えることが出来ました。この日を機に一層献眼活動の輪が広がればこんなに嬉しいことはありません。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、貴重な原稿をいただきました各位に感謝申し上げます。

大会記念事業委員会 委員長 花島 榮一

20年のあゆみ

富山県アイバンク20周年記念誌

発行日 平成24年9月30日

編集・発行	公益財団法人富山県アイバンク 富山市杉谷2630 富山大学医学部眼科内 TEL 076-434-5710
発行人	大黒 幸雄
印刷	菅野印刷興業株式会社



アイバンクは目の見えない方のための
角膜登録をいただく機関です。